言語聴覚学科

授業科目

言語聴覚学科（Speech-Language-Hearing therapy）

ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）

① 言語聴覚士としての職業倫理をもち、対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。
② 言語聴覚士として必要な知識・技能を習得しようとする探究心や、自ら問題を解決しようとする積極性を身につけている。
③ 科学的根拠にもとづいたリハビリテーションを提供できる。
④ リハビリテーション専門職の役割を理解し、目標に向かってチームで協力することができる。

	講義	実習
2学年	カリキュラム・ポリシー ① 対象者やその家族と真摯に向き合う力を育成する。 ② 自己の問題点に対し、改善に向けて努力する力を育成する。 ③ 対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てる力を育成する。 ④ リハビリテーション専門職種の役割を理解し、情報を共有することで対象者の問題を幅広く捉えることができる力を育成する。	
	***専門基礎分野*：** ［心理学］心理測定法 ［社会福祉教育］社会保障制度・関係法規 ［専門基礎分野特論］Ⅰ基礎医学／Ⅱ臨床医学／Ⅲ音声言語聴覚医学／Ⅳ心理学 Ⅴ言語学／Ⅵ音声学／Ⅶ音響学／Ⅷ社会福祉・教育 ***専門分野*：** ［失語・高次脳機能障害学］Ⅳ訓練／Ⅴケーススタディー ［言語発達障害学］Ⅷケーススタディー ［発声発語・嚥下障害学］Ⅳ成人系発語障害／Ⅵ摂食嚥下障害／Ⅶ音声障害 Ⅷ流暢性障害／Ⅸケーススタディー ［聴覚障害学］Ⅳ小児聴覚障害／Ⅴ補聴器・人工内耳／Ⅵ視覚聴覚二重障害 ［専門分野特論］Ⅰ言語聴覚障害学総論／Ⅱ失語症学／Ⅲ高次脳機能障害学 Ⅳ言語発達障害学／Ⅴ発声発語障害学／Ⅵ摂食嚥下障害学 Ⅶ聴覚障害学	**臨床実習Ⅱ【12週間】** 実際に対象者についての情報収集および評価をし、対象者に即した基本的な言語聴覚療法を学びます。
1学年	カリキュラム・ポリシー ① 対象者と良好な関係を築くために必要なコミュニケーション態度・技術を育成する。 ② 自己の問題点を客観的に認識できる力を育成する。 ③ 言語聴覚士が対象とする基本的な疾患・障害についての知識を育成する。	
	***専門基礎分野*：** ［基礎医学］医学総論／生理学／病理学／解剖学 ［臨床医学］耳鼻咽喉科学／内科学／小児科学／形成外科学／臨床神経学 精神医学／リハビリテーション医学／臨床歯科医学・口腔外科学 ［音声・言語・聴覚医学］呼吸発声発語系／聴覚系／神経系 ［心理学］認知・学習心理学／生涯発達心理学／臨床心理学／心理統計法 ［音声・言語学］言語発達学／言語学／音声学／音響学／聴覚心理学 ［社会福祉教育］リハビリテーション概論（PT・OT概論含む） ***専門分野*：** ［言語聴覚障害総論］言語聴覚障害学概論／言語聴覚診断学 コミュニケーション技能演習 コミュニケーション障害演習／言語聴覚障害学演習 ［失語・高次脳機能障害学］Ⅰ概論／Ⅱ失語・高次脳機能障害／Ⅲ評価 ［言語発達障害学］Ⅰ概論／Ⅱ自閉症スペクトラム障害／Ⅲ知的発達障害 Ⅳ限局性学習障害／Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下／Ⅵ検査・評価 Ⅶケーススタディー ［発声発語・嚥下障害学］Ⅰ概論／Ⅱ小児系発語障害／Ⅲ成人系発語障害 Ⅴ摂食嚥下障害 ［聴覚障害学］Ⅰ概論／Ⅱ成人聴覚障害／Ⅲ小児聴覚障害	**【コミュニケーション技能演習実習／5日間】** 医療・福祉施設での介護や、リハビリテーション場面の見学などを行い、対象者との接し方を学びます。 **【コミュニケーション障害演習実習／5日間】** 言語聴覚士の業務の実際を学びます。 **【臨床実習Ⅰ／15日間】** 対象者の全体像ならびに生活機能と障害のとらえ方を学びます。（対象者に対して言語聴覚療法評価を行い、生活機能と障害を整理し治療目標を立案）

言語聴覚学科　2024年度入学生　カリキュラム

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める合計単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	授業形式	学則に定める授業科目	1学年	講師名	2学年	講師名
専門基礎分野	基礎医学	3	8	1	15	講義	医学総論	15	林宏拓・学科教員		
				2	30	講義	生理学	30	米倉千晶		
				2	30	講義	病理学	30	山本寛		
				2	30	講義	解剖学	30	米倉千晶		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅰ【基礎医学】			15	
	臨床医学	6	11	1	15	講義	耳鼻咽喉科学	15	物部寛子・中西あか子		
				2	30	講義	内科学	30	佐藤和夫		
				2	30	講義	小児科学	30	鈴木文晴		
				1	15	講義	形成外科学	15	時岡一幸		
				2	30	講義	臨床神経学	30	佐藤和夫		
				1	15	講義	精神医学	15	岡口亜之・中村晃一		
				1	15	講義	リハビリテーション医学	15	佐藤和夫・学科教員		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅱ【臨床医学】			15	
	臨床歯科医学	1	1	1	15	講義	臨床歯科医学・口腔外科学	15	赤坂徹		
	音声・言語・聴覚医学	3	7	2	30	講義	呼吸発声発語系	30	西片裕		
				2	30	講義	聴覚系	30	[illegible]		
				2	30	講義	神経系	30	天野カオリ		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅲ【音声言語聴覚医学】			15	
	心理学	7	12	2	30	講義	認知・学習心理学	30	藤枝幹大		
				2	30	講義	生涯発達心理学	30	藤枝幹大		
				3	45	講義	臨床心理学	45	藤枝幹大		
				2	30	講義	心理測定法			30	
				2	30	講義	心理統計法	30	福島和郎		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅳ【心理学】			15	
	言語発達学	1	2	2	30	講義	言語発達学	30	雹間郁美		
	言語学	2	4	3	45	講義	言語学	45	勝山裕之		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅴ【言語学】			15	
	音声学	2	4	3	45	講義	音声学	45	田中邦佳		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅵ【音声学】			15	
	音響学	2	4	2	30	講義	音響学	30	田中邦佳		
				1	15	講義	聴覚心理学	15	田嶋圭一		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅶ【音響学】			15	
	社会福祉・教育	2	4	2	30	講義	社会保障制度・関係法規			30	
				1	30	講義・実技	リハビリテーション概論（介護福祉論含む）	30	介護・OT・PT教員		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅷ【社会福祉・教育】			15	
	合　計	29	57	57	870			690		180	

専門分野	言語聴覚障害学総論	4	10	2	30	講義	言語聴覚障害学概論	30	木村欣司		
				2	30	講義	言語聴覚障害診断学	30	木村欣司・山﨑暁		
				2	60	講義・実習	コミュニケーション技能演習	60	鈴木冥生・学科教員		
				2	60	講義・実習	コミュニケーション障害演習	60	鈴木冥生・学科教員		
				1	30	演習	言語聴覚障害学演習	30	鈴木冥生・学科教員		
				1	15	講義	専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】			15	
	失語・高次脳機能障害学	6	12	1	15	講義	Ⅰ概論	15	西片裕・山﨑暁		
				2	30	講義	Ⅱ失語・高次脳機能障害	30	西片裕・山﨑暁		
				4	60	講義	Ⅲ評価	60	西片裕・山﨑暁		
				2	30	講義	Ⅳ訓練			30	
				1	30	演習	Ⅴケーススタディー			30	
				1	15	講義	専門分野特論Ⅱ【失語症学】			15	
				1	15	講義	専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】			15	
	言語発達障害学	6	8	1	15	講義	Ⅰ概論	15	鈴木圭子		
				1	15	講義	Ⅱ自閉症スペクトラム障害	15	重森知奈		
				1	15	講義	Ⅲ知的発達障害	15	水戸陽子		
				1	15	講義	Ⅳ限局性学習障害	15	中塚誠		
				1	15	講義	Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下	15	板垣しおり・谷本武彦		
				1	30	講義・演習	Ⅵ検査・評価	30	馬目雪枝		
				1	30	演習	Ⅶケーススタディー			30	
				1	15	講義	専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】			15	
	発声発語・嚥下障害学	9	14	1	15	講義	Ⅰ概論	15	小塚誠・木村欣司・鈴木冥生		
				2	30	講義	Ⅱ小児系発話障害	30	鈴木圭子		
				2	30	講義	Ⅲ成人系発話障害	30	鈴木冥生		
				1	30	演習	Ⅳ成人系発話障害			30	
				2	30	講義	Ⅴ摂食嚥下障害	30	木村欣司		
				1	30	演習	Ⅵ摂食嚥下障害			30	
				1	15	講義	Ⅶ音声障害			15	
				1	15	講義	Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）			15	
				1	30	演習	Ⅸケーススタディー			30	
				1	15	講義	専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】			15	
				1	15	講義	専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】			15	
	聴覚障害学	7	8	1	15	講義	Ⅰ概論	15	岡野由実		
				2	30	講義	Ⅱ成人聴覚障害	30	坂本圭		
				1	15	講義	Ⅲ小児聴覚障害	15	氏田直子		
				1	15	講義	Ⅳ小児聴覚障害			15	
				1	15	講義	Ⅴ補聴器・人工内耳			15	
				1	15	講義	Ⅵ視覚聴覚二重障害			15	
				1	15	講義	専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】			15	
	臨床実習	12	15	3	120	実習	実習Ⅰ（評価実習）	120	実習指導者		
				12	480	実習	実習Ⅱ（臨床実習）			480	
	合　計	44	67	67	1545			705		840	

言語聴覚学科　2023年度入学生　カリキュラム

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める合計単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	授業形式	学則に定める授業科目	1学年	講師名	2学年	講師名
専門基礎分野	基礎医学	3	8	1	15	講義	医学総論	15	林宏拓・学科教員		
				2	30	講義	生理学	30	米倉千晶		
				2	30	講義	病理学	30	山本寛		
				2	30	講義	解剖学	30	米倉千晶		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅰ【基礎医学】			15	学科教員
	臨床医学	6	11	1	15	講義	耳鼻咽喉科学	15	物部寛子・中西わか子		
				2	30	講義	内科学	30	佐藤和夫		
				2	30	講義	小児科学	30	鈴木文晴		
				1	15	講義	形成外科学	15	時岡一幸		
				2	30	講義	臨床神経学	30	佐藤和夫		
				1	15	講義	精神医学	15	田口弘之・中村晃一		
				1	15	講義	リハビリテーション医学	15	佐藤和夫・学科教員		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅱ【臨床医学】			15	学科教員
	臨床歯科医学	1	1	1	15	講義	臨床歯科医学・口腔外科学	15	赤坂徹		
	音声・言語・聴覚医学	3	7	2	30	講義	呼吸発声発語系	30	西片裕		
				2	30	講義	聴覚系	30	[illegible]		
				2	30	講義	神経系	30	天野カオリ		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅲ【音声言語聴覚医学】			15	学科教員
	心理学	7	12	2	30	講義	認知・学習心理学	30	藤枝幹大		
				2	30	講義	生涯発達心理学	30	藤枝幹大		
				3	45	講義	臨床心理学	45	藤枝幹大		
				2	30	講義	心理測定法			30	福島和郎
				2	30	講義	心理統計法	30	福島和郎		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅳ【心理学】			15	学科教員
	言語発達学	1	2	2	30	講義	言語発達学	30	霍間郁美		
	言語学	2	4	3	45	講義	言語学	45	勝山裕之		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅴ【言語学】			15	学科教員
	音声学	2	4	3	45	講義	音声学	45	田中邦佳		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅵ【音声学】			15	学科教員
	音響学	2	4	2	30	講義	音響学	30	田中邦佳		
				1	15	講義	聴覚心理学	15	田嶋圭一		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅶ【音響学】			15	学科教員
	社会福祉・教育	2	4	2	30	講義	社会保障制度・関係法規			30	山下望
				1	30	講義・実技	リハビリテーション概論（介護福祉論含む）	30	介護・OT・PT教員		
				1	15	講義	専門基礎分野特論Ⅷ【社会福祉・教育】			15	学科教員
	合　計	29	57	57	870			690		180	

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	学則に定める合計単位数	学則に定める単位数	学則に定める時間数	授業形式	学則に定める授業科目	1学年	講師名	2学年	講師名
専門分野	言語聴覚障害学総論	4	10	2	30	講義	言語聴覚障害学概論	30	木村欣司		
				2	30	講義	言語聴覚障害診断学	30	木村欣司・山崎暁		
				2	60	講義・実習	コミュニケーション技能演習	60	鈴木真生・学科教員		
				2	60	講義・実習	コミュニケーション障害演習	60	鈴木真生・学科教員		
				1	30	演習	言語聴覚障害学演習	30	鈴木真生・学科教員		
				1	15	講義	専門分野特論Ⅰ【言語聴覚障害学総論】			15	学科教員
	失語・高次脳機能障害学	6	12	1	15	講義	Ⅰ概論	15	西片裕・山崎暁		
				2	30	講義	Ⅱ失語・高次脳機能障害	30	西片裕・山崎暁		
				4	60	講義	Ⅲ評価	60	西片裕・山崎暁		
				2	30	講義	Ⅳ訓練			30	西片裕・山崎暁
				1	30	演習	Ⅴケーススタディー			30	西片裕・山崎暁
				1	15	講義	専門分野特論Ⅱ【失語症学】			15	学科教員
				1	15	講義	専門分野特論Ⅲ【高次脳機能障害学】			15	学科教員
	言語発達障害学	6	8	1	15	講義	Ⅰ概論	15	鈴木圭子		
				1	15	講義	Ⅱ自閉症スペクトラム障害	15	重森知奈		
				1	15	講義	Ⅲ知的発達障害	15	水戸陽子		
				1	15	講義	Ⅳ限局性学習障害	15	中塚誠		
				1	15	講義	Ⅴ脳性麻痺・小児嚥下	15	坂口しおり・谷本武慶		
				1	30	講義・演習	Ⅵ検査・評価	30	馬目雪枝		
				1	30	演習	Ⅶケーススタディー			30	馬目雪枝
				1	15	講義	専門分野特論Ⅳ【言語発達障害学】			15	学科教員
	発声発語・嚥下障害学	9	14	1	15	講義	Ⅰ概論	15	中塚誠・木村欣司・鈴木真生		
				2	30	講義	Ⅱ小児系発話障害	30	山崎暁		
				2	30	講義	Ⅲ成人系発話障害	30	鈴木真生		
				1	30	演習	Ⅳ成人系発話障害			30	鈴木真生
				2	30	講義	Ⅴ摂食嚥下障害	30	木村欣司		
				1	30	演習	Ⅵ摂食嚥下障害			30	加藤太 ・・木村欣司
				1	15	講義	Ⅶ音声障害			15	西片裕
				1	15	講義	Ⅷ流暢性障害（吃音を含む）			15	南めぐみ
				1	30	演習	Ⅸケーススタディー			30	古谷祥宏・鈴木真生
				1	15	講義	専門分野特論Ⅴ【発声発語障害学】			15	学科教員
				1	15	講義	専門分野特論Ⅵ【摂食嚥下障害学】			15	学科教員
	聴覚障害学	7	8	1	15	講義	Ⅰ概論	15	岡野由実		
				2	30	講義	Ⅱ成人聴覚障害	30	坂本圭		
				1	15	講義	Ⅲ小児聴覚障害	15	伊集院亮子		
				1	15	講義	Ⅳ小児聴覚障害			15	岡野由実
				1	15	講義	Ⅴ補聴器・人工内耳			15	関口貴之
				1	15	講義	Ⅵ視覚聴覚二重障害			15	森澤亮介
				1	15	講義	専門分野特論Ⅶ【聴覚障害学】			15	学科教員
	臨床実習	12	15	3	120	実習	実習Ⅰ（評価実習）	120	実習指導者		
				12	480	実習	実習Ⅱ（臨床実習）			480	実習指導者
	合　計	44	67	67	1545			705		840	

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	医学総論	林宏拓・西片裕・山崎暁	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	・医学の歴史，倫理などを学び，医学に関する基本的な知識を広く習得する。 ・患者を中心とした医療のあり方を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・誕生から死に至るまで医学に関わる倫理的問題点を考察できる。 ・インフォームドコンセント、QOL,尊厳死などを説明できる。 ・最新の国民衛生の動向を説明できる。		
授業計画	講義内容は進行状況で変更となることもあります。 第1回目：医学の学び方　医療従事者の心構え 第2回目：健康の定義 第3回：ICF（国際生活機能分類）の概念 第4回：ICF（国際生活機能分類）の活用法 第5回：リハビリテーションに関する疾患 第6回：中枢神経と末梢神経の疾患診方 第7回：インフォームドコンセント・障害受容 第8回：QOL（生活の質）・QOD（尊厳死）・ターミナルケアなど 定期試験：課題		
教科書	適宜、資料配布		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	課題評価100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業態度も細かに指導します。集中して講義に望んでください。		
教員紹介	林宏拓：聖パウロ病院勤務 西片裕：多摩リハビリテーション学院専門学校 山崎暁：多摩リハビリテーション学院専門学校		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	生理学	米倉千晶	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	「生きることの理（ことわり）」生命のメカニズムを理解する。生命の営み、分子、細胞、組織、器官、個体の各レベルでの理解と各々が複雑に連携し1個体としての協調的技能を理解する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・生理学（人体の技能調節）の基礎を身につけることができる。 ・臨床科目のより深い理解につなげ、対応する力が習得できる。
授業計画	解剖学と照らし合わせながら授業をすすめます。人体の構造の理解が不十分ですと、生理学の理解は困難です。解剖学の復習をしっかり行い、授業に臨んでください。 第1回 神経 第2回 〃 第3回 〃 第4回 〃 第5回 筋 第6回 運動 第7回 感覚 第8回 内分泌，生殖・成長と老化 第9回 血液 第10回 循環 第11回 呼吸 第12回 消化・吸収 第13回 栄養と代謝 第14回 体温 第15回 排泄機能の生理―尿素成および体温調節 定期試験：筆記
教科書	北村 諭他監修：『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 生理学（3版）』　中外医学社、価格：3,900円＋税
参考書	・田中 越郎：『イラストでまなぶ生理学』医学書院、価格3,150円＋税 ・東京大学生命科学教科書編集委員会編：『生命科学』羊土社、価格2,940円＋税 ・医療情報科学研究所編集『病気がみえる（脳・神経）（呼吸器）（消化器）』メディックメディア、価格3,150円～3,990円＋税
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）で成績評価
授業の留意点・授業外の学習活動など	人体のしくみを理解（解剖学）した上で、働き（生理学）が理解できます。生理学の理解には考える力が必要です。解剖学の教科書と合わせた学習を心掛けてください。
教員紹介	病院の経験を経て、東京都内　医師会看護学校に勤務していた。 医療と教育の双方の経験を活かし、現在教鞭を取っている。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	病理学	山本　寛	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	病理学とは、生体に起こる疾病の原因・本態とその成り立ちを解明する医学の基本的な学問です。疾病を起こす原因とそれぞれの疾病で生じる変化やその経過、転機を総合的に理解するために学習します。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	学習者は、疾病の本態を学習することにより、疾病の原因、経過、治療予後などを理解できるようになります。疾病の理解により、疾病への総合的判断能力を習得できます。
授業計画	第1回　1章 病理学の領域　付録 病理診断検査　p3～　p377～ 第2回　1章 疾病の概要　病因　p4～ 第3回　2章 細胞・組織とその障害　p13～ 第4回　3章 再生と修復(再生・化生・肉芽組織・異物処理)　p25～ 第5回　4章 循環障害①(局所の循環障害)　p33～ 第6回　4章 循環障害②(血栓・塞栓症・浮腫)　p40～ 第7回　5章 炎症①(炎症の原因と経過)　p53～ 第8回　5章 炎症②(炎症の種類)　p62～ 第9回　6章 免疫とアレルギー①(免疫系の役割)　p69～ 第10回 6章 免疫とアレルギー②(アレルギー・自己免疫疾患)　p78～ 第11回 7章 感染症(感染症とは、病原微生物の種類)　p87～ 第12回 8章 代謝異常(脂質・蛋白・糖・その他の代謝異常)　p99～ 第13回 11章 先天異常(遺伝性疾患・先天代謝異常・奇形)　p145～ 第14回 12章 腫瘍①(腫瘍の分類、腫瘍の形態・発育)　p157～ 第15回 12章 腫瘍②(腫瘍の進展と転移、腫瘍の診断・治療)　p164～ 定期試験：筆記
教科書	教科書：カラーで学べる「病理学」(ヌーヴェルヒロカワ発行) 第5版　渡辺　照男　編集　　本体価格：2,500円＋税 プリント：随時配布
参考書	特になし
成績評価の方法・基準	定期試験(100%)で評価します。試験は教科書の持ち込み不可です。
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業を大切にしてください。予習として、専門用語を正しく理解できるように講義に合わせて教科書を熟読してください。復習として、配布プリント内の確認問題や復習問題を整理してください。授業で学んだ専門用語を理解し、他人に説明できるように身につけてください。常に身近な日常生活の中で聞かれる疾病に関心を持って下さい。 毎回、前回授業の復習確認を行います。
教員紹介	医療系大学での 40 年に及ぶ医療技術者教育の経験を活かし、学生が医療人として信頼される医療行為が行えるよう講義します。学習者が疾病の本態を理解し、患者様とのコミュニケーション能力を身に付けられることを願っています。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	解剖学	米倉千晶	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	解剖学は医学・医療の中で最も重要な基礎科目である。それを理解することにより高度な知識および確かな技術の習得の礎を築く。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・人体の構造を理解する。 ・解剖図を描写し説明ができる。		
授業計画	資料を配布します。随時、板書や口頭で重要な点は述べていきますので書き込みをする等各自で工夫をして学習を深めてください。 第1回 解剖学総論 第2回 骨格系 第3回 筋系 第4回 循環器系・消化器系 第5回 呼吸器系 第6回 泌尿器系・生殖器系 第7回 内分泌系 第8回、第9回 感覚器 第10回～15回　神経系 定期試験：筆記		
教科書	北村 諭他監修:『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 解剖学（改定3版)』　中外医学社、価格：4,600円＋税		
参考書	・松村譲兒：『イラスト解剖学』中外医学社、価格：7,600円＋税 ・松村譲兒：『イラストでまなぶ解剖学』医学書院、価格：2,730円＋税 ・坂井建雄監訳：『グラント解剖学図譜』医学書院、価格：15,750円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）で成績評価		
授業の留意点・授業外の学習活動など	解剖学をマスターする方法は普段からの復習をする着実な努力が必要です。		
教員紹介	病院の経験を経て、東京都内　医師会看護学校に勤務していた。 医療と教育の双方の経験を活かし、現在教鞭を取っている。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	耳鼻咽喉科学	物部寛子・中西わか子	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	将来STを目指す立場から、必要な耳鼻咽喉科に関する知識を身につける		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	耳鼻咽喉科で扱う疾患について、その基礎となる解剖・生理・検査を理解する		
授業計画	第1回　胎児発生から平衡聴覚器機発生のしくみ 聴覚前庭系の解剖と生理 第2回　耳科学的検査（聴覚、平衡機能検査、眼球運動検査） 第3回　外耳・中耳・内耳・聴覚路・顔面神経・前庭・平衡系の疾患と症候、診断、治療 第4回　成人聴覚検査、小児聴覚検査、鑑別診断、人工聴覚器の適応、聴覚・平衡リハビリテーション 第5回　鼻副鼻腔疾患 第6回　口腔・咽頭・唾液腺疾患、構音障害 第7回　喉頭・気管・頸部の疾患、音声障害と発声障害、気道の問題 第8回　摂食嚥下障害のメカニズム、検査、治療、リハビリテーション 定期試験：筆記		
教科書	言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学（第2版） 医学書院　本体価格：3,800円＋税		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	①患者に対する思いやりとチームワークにおける協調精神を身につける。 ②プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努める。		
教員紹介	日本赤十字社医療センター　耳鼻咽喉科　医師		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	内科学	佐藤和夫	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	内科学の知識を取得するために1）診断・治療の考え方，2）各疾患の病態・特徴，3）診療ガイドラインなどの内容を講義し，診断基準，臨床検査や標準治療・個別化医療についての知識を授業で学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚士に必要な内科学の知識取得を目指す。まずは，概略をつかむ。すなわち，全体→細部と知識を獲得していく。その際，常に，なぜこうなるのか（病態）を考え，多岐にわたる知識を効率よく整理する。		
授業計画	第1回　内科学総論（1） 第2回　内科学総論（2） 第3回　循環器疾患（1） 第4回　循環器疾患（2） 第5回　呼吸器疾患 第6回　免疫・アレルギー・膠原病（1） 第7回　免疫・アレルギー・膠原病（2） 第7回　腎臓疾患 第8回　血液疾患 第9回　消化器疾患（1） 第10回　消化器疾患（2） 第11回　代謝疾患・内分泌疾患（1） 第12回　代謝疾患・内分泌疾患（2） 第13回　感染症 第14回　神経疾患・その他 第15回　内科学　総まとめ 定期試験：筆記		
教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト内科学　北村論編　中外医学社中外　改定7版（2020年3月）		
参考書	メディカルスタッフのための内科学第4版　医学出版社		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	学習したことは必ず復習する。自分の学習の軌跡や授業で口頭で説明したことを書きとめておくための「マイノート」を必ず用意してください。授業での説明やわからないことがあった場合，質疑応答の時間を適宜，設定します。遠慮なくご質問ください。		
教員紹介	チューリッヒ生命　医長・産業医，医療法人社団　優和会。多くの実臨床経験と医学統計データ解析に従事し，これらを背景に講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	小児科学	鈴木文晴	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	1．小児保健・小児の定型発育発達・小児リハビリテーションの基礎的理解 2．小児リハビリの主要対象である神経疾患――脳性麻痺・重症心身障害・知的障害・自閉症スペクトラム障害・てんかん・筋疾患などの理解		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	1．上記1および2について、十分な基礎知識を習得する。 2．将来社会人として勤務しつつ、さらに主体的に学習する能力を身につける。		
授業計画	・テキスト・事前配布プリント・教材ビデオなども使用する。 ・予習と積極的な授業参加とをするように。 第1回：小児リハビリテーションの基礎、課題レポートの説明 第2回：小児保健　保健統計ー出生率　乳児死亡率　人口の年齢構成 第3-4回：定型（正常な）成長と発達 第5回：けいれん性疾患　神経細胞の機能とその障害　てんかん発作型分類　てんかん発作の観察と対応方法 第6回：知的障害　原因　頻度　症状　分類　リハビリテーション 第7回：自閉症スペクトラム障害　原因　頻度　症状　分類　リハビリテーション 第8回：学習障害　注意不足多動性障害 第9回：中間振り返り（レポート課題） 第10回：筋疾患　小児と社会　児童虐待　感染症と予防接種 第11-12回：脳性麻痺（原因　頻度　症状　分類）　リハビリテーション合併症と対策 第13-14回：重症心身障害（原因　頻度　症状　分類）　リハビリテーション合併症と対策 第15回：総括　ディスカッション　患者さんおよび家族とのコミュニケーションの経験　質問コーナー 定期試験：中間（レポート課題）・終講（筆記）		
教科書	宮尾益知編集　言語聴覚士のための基礎知識　小児科学・発達障害学（第3版）医学書院　3,800円+税		
参考書	授業中に紹介します。		
成績評価の方法・基準	中間振り返り（50%）定期試験（筆記）（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	予習と授業中の活発な意見発表とを求めます。自分の経験を活かして物事を考えましょう。将来の業務に活用できように知識を身につけましょう。		
教員紹介	第2北総病院　小児リハビリセンター長（小児科医）		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	形成外科学	時岡一幸	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	形成外科で扱う疾患、およびその治療法などを学習する。 先天性疾患（口唇口蓋裂を含む）は国家試験の出題頻度が高く、詳細に解説する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	創傷治癒の基礎について理解できる。 代表的疾患の特徴、臨床症状、治療法などを理解できる。 口唇口蓋裂の臨床について理解できる。		
授業計画	第1回：総論（皮膚の構造、創傷治癒、形成外科の基本手技） 第2回：植皮術（遊離植皮術と有茎弁移植術） 第3回：先天性疾患（頭部・顔面、四肢、体幹など） 第4回：口唇口蓋裂（分類・疫学・発生・病理、新生児期・乳児期の治療） 第5回：口唇口蓋裂（幼児期・就学期の治療） 第6回：外傷・熱傷（外傷総論、軟部組織外傷、顔面骨骨折、熱傷） 第7回：褥瘡・再建外科（褥瘡、頭頸部再建、乳房再建） 第8回：美容医療（眼瞼、外鼻などの美容外科手術、レーザー治療など） 定期試験：筆記 ※　講義の日程は変更になる可能性があります。		
教科書	プリント配布		
参考書	口唇口蓋裂の総合治療　森口隆彦　編　克誠堂 標準形成外科　第7版　波利井清紀 編　医学書院 TEXT 形成外科学　波利井清紀　編　南山堂		
成績評価の方法・基準	定期試験　100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	PCプレゼンテーション形式		
教員紹介	埼玉医科大学　形成外科・美容外科　教授		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床神経学	佐藤和夫	2単位・30時間

授業の概要 (授業の目的)	神経疾患の理解には生理・解剖の知識がとても重要である。全般的なこと（総論）や各論では神経感染症，脳卒中，変性疾患，脱髄疾患，認知症，頭部外傷や脳腫瘍などについて，まずは大枠を捉え，細部へと授業を進める。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語聴覚士に必要な神経学の知識を取得する。そのためには代表的疾患の特徴をつかみ，適宜，知識の交通整理をするのが大切。バビンスキー反射，ウートフ徴候や球脊髄性筋萎縮症（SBMA）など，聞きなれない医学用語や病名が少なくないが，病態を理解して反復学習をすることが肝要である。
授業計画	第1回　神経学総論（診断・症候・治療のポイント）。 第2回　中枢神経の感染症 第3回　脳血管障害（脳卒中）（1） 第4回　脳血管障害（脳卒中）（2） 第5回　頭部外傷 第6回　脱髄疾患 第7回　変性疾患（1） 第8回　変性疾患（2） 第9回　認知症 第10回　筋疾患・神経筋接合部疾患（1） 第11回　筋疾患・神経筋接合部疾患（2） 第12回　末梢神経疾患 第13回　脳腫瘍 第14回　てんかん・頭痛 第15回　重要事項まとめ 定期試験：筆記
教科書	15章で学ぶビジュアル臨床神経学（永井知代子著，医歯薬出版株式会社　発刊2021年）
参考書	病気がみえる vol.7 脳・神経（第2版）（医療情報科学研究所）
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	学習にあたっては「臨床神経学・マイノート」を必ず準備していただきたい。授業中，適宜，質疑応答の時間を設定する。有意義に活用していただきたい。
教員紹介	チューリッヒ生命　医長・産業医，医療法人社団　優和会。多くの実臨床経験と基礎医学（特に中枢神経　神経伝達物質の薬理的作用など）の経験があります。これらを背景に「できるだけ分かりやすく」授業をします。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	精神医学	田口弘之 （多摩リハビリテーション病院） 中村晃一 （作業療法学科 専任教員）	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士が直接的に精神障害者への治療・支援を実施する機会は少ないが、メンタルヘルスが身体面へ及ぼす影響は大きく、基礎的な精神障害（疾患）について学習する必要がある。この授業にて、精神障害（疾患）への理解を深め、実際の臨床場面でも患者様のメンタル面を考慮する視点を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・メンタルヘルスの重要性を他者に説明できるようになる。 ・基礎的な精神障害（疾患）について理解し、他者に説明できるようになる。 ・精神障害者に対し、どのような治療・支援が行われているかを理解し、他者に説明できるようになる。		
授業計画	第1回　精神医学とは 第2回　気分障害 第3回　統合失調症① 第4回　統合失調症② 第5回　神経症圏の障害 第6回　アディクション 第7回　パーソナリティ障害／摂食障害 第8回　精神領域で用いられるコミュニケーション技術 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	太田保之・上野武治（編）:『学生のための精神医学（第3版）』医歯薬出版、価格：3,500円＋税		
参考書	必要に応じて資料を配布します。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	限られた講義時間ですので、講義中に質問等を受けることが難しい場合もありますが、理解できなかった事や納得できなかった事は、早い段階で担当教員に声をかけ解決するように努めて下さい。		
教員紹介	精神医療現場にて臨床を重ねた教員が、疾患についての基本的な理解ができるよう説明をします。また、臨床でのエピソード等も加え実際の患者像を伝えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	リハビリテーション医学	佐藤和夫・中田史宏・木村欣司	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	リハビリテーション医療に従事する専門職として必要なリハビリテーションに関する知識や感染拡大防止するための基礎知識を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	この講義を通じて、以下のことを達成することが目標となる。 ① 超高齢化社会を取り巻く環境について理解する。 ② リハビリテーション医療と概要を理解する。 ③ リハビリテーションで取り扱われる検査を理解する。 ④ リハビリテーションにおける多職種連携を理解する。 ⑤ リハビリテーションに従事するための感染予防について基礎知識を用いて防止に努めることができる。		
授業計画	第1回　リハビリテーション医療の現状（総論） 第2回　超高齢化社会を取り巻く環境 第3回　リハビリテーションにおける多職種連携について 第4回　リハビリテーションにおける感染予防① 第5回　リハビリテーションにおける感染予防② 第6回　リハビリテーションで取り扱う検査・評価 第7回　リハビリテーションで取り扱う検査・評価 第8回　リハビリテーションで取り扱う検査・評価 定期試験：課題		
教科書	・適宜資料配布		
参考書	・学生のためのリハビリテーション医学概論　医歯薬出版　柏森良二　著 価格：2,400＋税 ・現代リハビリテーション医学 改訂第3版　金原出版　千野直一　著 価格：8,800＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	・国試にも出題される大事な教科です．アクティブな姿勢を求めます． ・また、資料配布しないものは、ノートテイクをしっかりとしてください。		
教員紹介	佐藤和夫：チューリッヒ生命（内科医・産業医，温泉療法医） 中田史宏：多摩リハビリテーション学院専門学校　看護師 木村欣司：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	臨床歯科医学・口腔外科学	赤坂徹	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	口腔・顎・顔面を構成する組織、器官の基本的構造と生理機能を理解し、歯科領域の疾病・疾患に関する知識を習得する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・口腔・顎・顔面領域の構造について解剖学的用語で説明できる。 ・歯科に特有な疾患や機能障害について説明できる。 ・口腔清掃や摂食嚥下リハビリテーション等の口腔ケアの方法と目的について説明できる。 ・言語聴覚療法にかかわる歯科関連疾患について説明できる。 ・歯科領域に現れる先天性疾患および全身疾患の特徴と言語聴覚療法とのかかわりについて説明できる。		
授業計画	第1回：歯・歯周組織の解剖と疾患（教科書　第1章、2章） 第2回：口腔・顎・顔面の外傷・炎症・腫瘍（教科書　第3章　1，2，3，5，6，7） 第3回：口腔粘膜の疾患（教科書　第3章　4） 第4回：口腔と全身疾患のかかわり（教科書　第3章　8，9，10，11） 第5回：加齢による変化と機能障害（教科書　第3章　12，13） 第6回：口腔ケアと摂食嚥下機能障害（教科書　第3章　13，16） 第7回：口唇口蓋裂、顎口腔領域に現れる先天異常 第8回：まとめと演習 定期試験：筆記		
教科書	・夏目長門編：『言語聴覚士のための基礎知識　臨床歯科医学・口腔外科学　第2版』医学書院、価格：4,200円＋税 ・講義配布プリント		
参考書	高橋和人編：『自分でつくるぬりえ口腔解剖学ノート（第4版）』学建書院		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義の内容を効率的に理解するために各自予習をして下さい。予習の一助となるように、毎回の講義内容に相当する教科書の範囲を授業計画に可能な限り示しました。参考にして下さい。		
教員紹介	神奈川歯科大学　全身管理歯科学講座　障害者歯科学分野　診療科講師		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	音声言語聴覚医学 (呼吸発声発語系)	西片　裕	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	発声発語の障害を評価するための基礎知識として、呼吸・発声・構音に関わる器官の解剖機能について知り、呼吸・発声・構音のメカニズムを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・呼吸・発声・構音に関わる器官の解剖機能について理解する。 ・呼吸・発声・構音のメカニズムについて説明できる。		
授業計画	授業は適時配付するプリントに沿って行います。筋や神経の名称・機能など覚えることが多くあります。その中でも重要度が高いものから覚えるように心掛けてください。重要度については授業中に明示します。筋の名称・機能を覚えていないと、メカニズムを理解することができないので、しっかり復習してください。 第1~2回：発話メカニズムの概説、呼吸器系の構造、肺容量、呼吸様式 第3回：吸気筋とピストン運動 第4回：呼気筋とポンプハンドル運動・バケツハンドル運動 第5~6回：発声時呼吸 第7~8回：喉頭の構造と機能（声門閉鎖・開大） 第9回：発声メカニズム（声帯振動一周期） 第10回：発声メカニズム（声の高さの調整、声の大きさの調整） 第11回：咽頭の構造と機能、軟口蓋筋と鼻咽腔閉鎖機能 第12~13回：顔面表情筋と顔面運動、咀嚼筋と下顎運動 第14回：口腔の構造、舌筋と舌運動 第15回：脳神経（Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ、ⅩⅡ） 定期試験：筆記		
教科書	坂井建雄監訳：『プロメテウス解剖学コアアトラス』　医学書院、9500円＋税		
参考書	舘村卓監訳：『ゼムリン言語聴覚学の解剖生理』医歯薬出版、9400円＋税 Joel C. kahane 著、新美成二監訳：『発話メカニズムの解剖と生理』インテルナ出版、2800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	プリントには余白を多くとってあり、授業中のノートとしても書き込めるようにしています。プリントの量が多いので、ファイル等に整理するようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の呼吸発声発語障害領域での実務経験をもつ教員が、呼吸発声発語の構造とその運動メカニズムについて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声言語聴覚医学 (聴覚系)	馬場信太郎・吉冨愛 芦野聡子	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	聴覚系の解剖学的・神経学的な知識を学び、それらの機構に生じる種々の障害についてその病態とともに理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	解剖学的な知識について理解し、それぞれの器官がもつ機能、およびそれらが障害された場合の疾患を説明できるようになる。		
授業計画	第1回～第3回　言語聴覚士の臨床の立場から音声言語聴覚医学を学ぶ 第4回～第5回　耳ときこえと言語 第6回～第7回　聴覚系の解剖生理学 第8回～第9回　聴覚系の解剖生理学 第10回～第11回　外耳・中耳・内耳疾患の病態と検査 第12回～第15回　聴覚障害児の言語習得と言語指導 定期試験：筆記 ※　講義内容や順番が変更となることがあります。		
教科書	随時資料配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	積極的に授業へ参加すること。		
教員紹介	馬場信太郎（東京都立小児総合医療センター　耳鼻咽喉科　医長） 吉冨愛（東京都立小児総合医療センター　耳鼻咽喉科　医長） 芦野聡子（田中美郷教育研究所　言語聴覚士）		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声言語聴覚医学 (神経系)	天野カオリ	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	学生が人体における神経系（中枢/末梢）を総括的に学べるように総論各論と並行して言語聴覚と密に関連する神経系領域と機能構造における解剖学知識習得を目的とする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	実習や臨床現場で応用・対応できる神経系機能構造の理解を目標とする。 国家試験対応できるノート作成を心掛ける。 中枢・末梢神経障害・損傷による運動・機能障害における領域別に理解する。		
授業計画	第1回　神経学総論Ⅰ（神経発生・中枢神経と末梢神経） 第2回　神経学総論Ⅱ（神経細胞の機能と構造） 第3回　脊髄の構造と機能／髄膜の構造・脳脊髄液の分布と働き 第4～5回　脳の区分・脳溝・脳回／脳の機能Ⅰ（終脳と間脳） 第6～7回　脳の機能Ⅱ（脳幹・大脳基底核：錐体外路系疾患・小脳） 第8～9回　脳神経総論中間試験 / 講義：伝導路について 第10回　続伝導路・脳神経各論（分布領域と機能について） 第11回　脳神経各論・脳の血管系Ⅰ（動脈・静脈と分布領域） 第12回　脳の血管系Ⅱ（脳の血管障害による症状と運動機能障害） 第13回　末梢神経Ⅰ（皮神経・皮節デルマトーム・頚神経叢皮枝と筋枝） 第14回　末梢神経Ⅱ（上・下肢の神経分布） 第15回　自律神経系 定期試験：筆記		
教科書	監訳 坂井建雄：『プロメテウス解剖コアアトラス第3版』、医学書院、9,500円＋税		
参考書	必要に応じて随時資料を配付します。講義内容の関係より、録音撮影の禁止厳守でお願いします。		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	基本的に板書中心ですが、パワーポイントなど資料も使用します。ノートはしっかり自己管理できるものを用意して下さい。		
教員紹介	20年以上に渡る医学部・歯学部での解剖学教育経験と研究実績を生かして神経系の構造仕組みについて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	認知・学習心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の「心」を理解するために、教科書に沿って人間行動の構造を概観するとともに、人間全体に対する客観的・科学的視点を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・心理学がどのような学問かを説明できる。 ・心理学の方法論を説明できる。 ・各心理学用語を説明できる。 ・日常の人間行動について心理学用語を用いて表現できる。		
授業計画	授業は主に心理学用語の説明になります。特に国家試験に出題されている用語は正確に理解して確実に覚えてください。 第1回　心理学の視点　心理学の歴史 第2回　科学とは何か　心理学の方法 第3回　感覚の分化と統合 第4～5回　視覚 第6～8回　条件づけ 第9～10回　技能学習 第11～12回　記憶 第13回　問題解決 第14回　知識 第15回　推論と発見 定期試験：筆記（授業回数に含みません）		
教科書	鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎［編］『心理学［第5版補訂版］』　東京大学出版会　2,400円＋税		
参考書	詫摩武俊［編］　『心理学［改訂版］』　新曜社　1,700円＋税 長谷川寿一／東條正城／大島尚／丹野義彦／廣中直行［著］『はじめて出会う心理学』　有斐閣アルマ　2,000円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	これまではあまり意識してこなかった自分の行動を振り返って、そこに注意を向けてみましょう。同時に、他者に対する気配りを心がけてください。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	生涯発達心理学	藤枝　幹大	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の「心の発達」を理解するために、教科書を精読し、さまざまな心的機能の発達を概観するとともに、縦断的な視点も身につけていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・生涯発達心理学がどのような学問かを説明できる。 ・発達心理学の方法論を説明できる。 ・各発達心理学用語を説明できる。 ・実際の人間の発達現象について心理学用語を用いて説明できる。		
授業計画	第1回　発達の生物学的基礎 第2回　発達の過程 第3回　初期経験と臨界期 第4回　発達を支える社会的・文化的環境 第5～7回　乳児期（0～2歳） 第8～9回　幼児期（3～5歳） 第10回　児童期（6～8歳） 第11回　学童期（9歳～思春期） 第12回　Piaget,J.の認知的発達理論（演習） 第13回　Freud,S.の心理・性的発達理論（演習） 第14回　Erikson,E.H.の心理・社会的発達理論（演習） 第15回　発達と教育、個人差と教育（演習） 定期試験：筆記（授業回数に含みません）		
教科書	高橋道子／藤﨑眞知代／仲真紀子／野田幸江［著］『子どもの発達心理学』 新曜社　1,900円＋税		
参考書	鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃／河内十郎［編］『心理学［第5版補訂版］』 東京大学出版会　2,400円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分自身がどのように発達してきたかをできるだけ客観的に振り返ってみましょう。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	臨床心理学	藤枝　幹大	3単位・45時間

授業の概要 (授業の目的)	臨床とは何かを理解するために、教科書に沿って心理臨床活動を概観するとともに、臨床実践の面白さと奥深さと難しさを実感する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・臨床心理学がどのような学問かを説明できる。 ・各臨床心理学用語を説明できる。 ・臨床実践として対象者の心理状態を推測し、適切な行動がとれる。 ・臨床家として独自の臨床観をもてるような心理的構えができる。
授業計画	授業は、臨床実践的感覚を少しでも感じられるように、演習を多く取り入れます。その中で体験していることを吟味し、学習し、今後の活動に役立ててください。特に失敗したことは意味深いですので、失敗を恐れずに挑戦しましょう。同時に国試対策として、用語も確実に覚えていきます。 第1回　自己カウンセリング（演習） 第2回　臨床心理学の定義と基本構造 第3回　臨床心理学の歴史 第4～5回　正常と病理の概念　ディスカッション（演習） 第6～7回　面接による心理アセスメント 第8回　観察による心理アセスメント 第9～10回　検査による心理アセスメント（一部演習） 第11～13回　各種心理療法（演習） 第14～20回　各種心理療法　ビデオ鑑賞　ディスカッション（演習） 第21～23回　模擬カウンセリング　各種心理療法（演習） 定期試験：筆記（授業回数に含みません）
教科書	下山晴彦［編］『よくわかる臨床心理学［改訂新版］』ミネルヴァ書房 3,000円＋税
参考書	加藤義明／中里至正／鳴澤實［編著］『入門臨床心理学』　八千代出版 2,300円＋税 野島一彦［編著］『臨床心理学への招待［第2版］』　ミネルヴァ書房 2,600円＋税
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）
授業の留意点･授業外の学習活動など	臨床の根幹はコミュニケーションです。特に非言語的コミュニケーションに注意を向けてください。また、本授業を通して、より深く自分自身を知っていくことが本質的な目的となります。
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	心理統計法	福島和郎	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	データの見方や、統計的仮説検定の手続きに伴う統計学的手法を用いたデータ処理の方法を学修する。心理測定の理論的基盤の一つである心理統計法による科学的なアプローチを体験的に理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・心理学の科学性の拠り所である有意性検定の手続きを説明できる。 ・代表値や散布度の観点からデータを客観的に読み取ることができる。 ・代表的な統計手法を用いた統計的仮説検定の手続きを理解できる。		
授業計画	第1回：心理統計とは、心理学の科学性、心理学における心理統計の意義 第2回：心理学研究のルール、有意性検定の手続き 第3回：実験法と心理統計、記述統計（データの整理・要約） 第4回：代表値（平均値、中央値、最頻値）と散布度（S^2、SD、Q） 第5回：質問紙法と心理統計、統計的仮説検定の手続き 第6回：尺度水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度） 第7回：確認テスト（前半のまとめ）、推測統計（標本による母集団の推定） 第8回：標準化、標本平均と母集団平均、z検定、信頼区間 第9回：パラメトリック検定、t検定 第10回：分散分析（F検定）、多重比較 第11回：ノンパラメトリック検定、U検定、符号和検定、χ^2検定 第12回：相関分析（2変数の相互関係）、共分散、相関係数、偏相関係数 第13回：多変量解析（3変数以上の関係） 第14回：重回帰分析、共分散構造分析、因子分析、主成分分析 第15回：講義内容の総括 最終試験		
教科書	加藤司（著）:『〔改訂版〕心理学の研究法―実験法・測定法・統計法―』北樹出版、2,090円		
参考書	中村知靖・松井仁・前田忠彦（著）:『心理統計法への招待』サイエンス社、2,300円		
成績評価の方法・基準	定期試験（90%）、小テストまたはレポート（10%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	毎回プリントを配布し、これにポイントを記入してもらう授業を行います。体験学習を進めるため、ルート計算のできる電卓を持参してください。		
教員紹介	複数の教育機関で講師を務め、病院併設の研究機関で精神障碍者の治験と検査開発にあたり、精神障碍者グループホーム等で臨床実践を行ってきました。心理統計法を体験的に学修していただく講義を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	１学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語発達学	霍間郁実	２単位・３０時間
授業の概要 （授業の目的）	ことばに関わる支援を行うための基礎として、ヒトがどのように言語を獲得してきたかを知り、言語発達のプロセスを把握する。同時に、各発達段階における言語発達の特徴を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・ことばの発達のプロセスを全般的な発達の中でとらえることができる。 ・各発達段階における言語発達の特徴を理解し、説明できる。		
授業計画	第1～3回　言語の役割とその進化・言語発達理論 第4回　まとめ① 第5～7回　言語発達の様相（１）新生児期～乳幼児期 第8回　まとめ② 第9~11回　言語発達の様相（２）乳幼児期～学童期 第12回　まとめ③ 第13~15回　言語発達と障害		
教科書	随時資料を配布する。		
参考書	・岡本夏木：『子どもとことば』岩波新書、価格：735円＋税 ・中川信子：『発達障害とことばの相談―子どもの育ちを考える言語聴覚士のアプローチ』小学館、価格；740円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験70%、レポート30%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	毎回コメントカードを配布します。感想や質問、さらに知りたいことなど自由に記入してください。質問等については次回講義時に解説します。 不明点を残さないよう積極的にコメントカードを活用してください。		
教員紹介	義務教育や高等教育の現場で、障害児者への支援・指導に携わってきました。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	言語学	勝山裕之	3単位45時間
授業の概要 (授業の目的)	国家試験に対応できるように、言語学の基礎と日本文法の基礎を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	言語学の基礎と日本文法の基礎の知識を習得し、実際の症例に対応する際にその知識が応用できるようにする。		
授業計画	第1回 序論 第2回・第3回・第4回・第5回 音声学・音韻論 第6回・第7回・第8回 形態論 第9回・第10回・第11回 統語論 第12回 中間試験 第13回・第14回・第15回 意味論・語用論・談話分析 第16回 社会言語学 第17回 心理言語学 第18回・第19回・第20回・第21回・第22回・第23回 日本文法 定期試験：中間（筆記）・終講（筆記）		
教科書	日野資成：『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房、価格：1,700円＋税 随時プリント配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	中間試験、学期末試験（割合講義時説明）（定期試験は持ち込み一切不可）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	国家試験の言語学の範囲で9割以上正解することを目標とするので、全力で真面目に取り組むこと。私語厳禁。		
教員紹介	当学院で20年以上、教鞭を取っています。 また教諭免許も所持し、他大学でも非常勤講師として働いています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音声学	田中邦佳	3単位・45時間
授業の概要 (授業の目的)	「音」に関する分野である音声学、音韻論に関する知識を一通り得ることを目的とする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・音声記号の読み書きを行う ・日本語の音声に見られる様々な体系的な事項について説明する ・実際の音声現象を客観的に分析しその規則性を記述して説明する		
授業計画	第1回: Introduction 第2回: 音声学とは 第3回: 音声器官 第4回: 調音点について 第5回: 調音方法について 第6回: 国際音声字母（IPA） 第7回: 子音1 第8回: 子音2 第9回: 母音1 第10回: 母音2 第11回: 中間テスト(発音テスト) 第12回: 音節 第13回: モーラ 第14回: 音の並びの規則（phonotactics） 第15回: アクセント1 第16回: アクセント2 第17回: イントネーション 第18回: 音素1 第19回: 音素2 第20回: 音素3 第21回: 音声学と音響学1 第22回: 音声学と音響学2 第23回: 音声学と音響学3 定期試験：筆記と課題		
教科書	斎藤 純男：『日本語音声学入門（改訂版）』三省堂、価格：2,000円＋税		
参考書	今泉 敏（編）:『言語聴覚士のための基礎知識　音声学・言語学』 医学書院、価格：3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	試験（80%）、授業内外の課題の提出状況（20%）		
授業の留意点･授業外の学習活動など	調音器官の動きを意識しながら音を発して、自分がどのように調音しているか、その感覚を自分で掴むことが理解に繋がります。覚えておくことが必要な項目もありますが、その知識を利用し、身近な音声現象例を分析し、言葉で説明できるようになることは、音声知識の実用に不可欠なことです。自ら発音して実感し、分析・考察することが理解に繋がります。		
教員紹介	第二言語習得における音声の生成および知覚について研究しています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1年生	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	音響学	田中邦佳	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	どのように発音するのかを学ぶのが音声学なら、発音された音声が物理的にどのような特性を持っているかを学ぶのが音響学です。本授業では、音声の物理的な特性およびその理論についての知識を得ることが目的です。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・音声の物理的特性に関する各種計算を行う ・理論について理解し、図や表のデータを読み取り、そのデータで何が示されているのかを説明する ・音声の音響分析を行う		
授業計画	第1回：音の物理 第2回：音響分析とは 第3回：純音の特性 第4回：音の周波数・波長 第5回：フーリエ変換 第6回：スペクトル・スペクトログラム 第7回：共鳴 第8回：倍音 第9回：ソース・フィルター理論 第10回：母音の音響的特徴 第11回：子音の音響的特徴 第12回：音声のデジタル化 第13回：デシベル計算1 第14回：デシベル計算2 第15回：まとめ 定期試験：筆記と課題 ※学習理解度に応じて、授業の順番が変更になる場合があります。		
教科書	吉田 友敬：『言語聴覚士のための音響学入門』 海文堂、価格：2,600円＋税		
参考書	青木 直史：『ゼロからはじめる音響学』 講談社、価格：2,600円+税		
成績評価の方法・基準	試験（80%）、授業内外の課題の提出状況（20%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	音響学は、なかなか理解が難しいかもしれませんが、大まかなストーリー（順番）を把握できるようになりましょう。また、実際の発話音声の音響特性の観察が理論の理解には必要です。音声の音響分析では、Praat というソフトウェアを無料で使用できます。http://www.fon.hum.uva.nl/praat/		
教員紹介	第二言語習得における音声の生成および知覚について研究しています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	聴覚心理学	田嶋　圭一	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	人間の感覚様相（いわゆる五感）の中でも視覚に次いで重要かつ言語コミュニケーションにとって不可欠とされる「聴覚」の仕組みについて学びます。我々は周囲の音の様々な特性をどのように聞き取っているのか，それはどのようなメカニズムによって成り立っているのかについて理解を深めることを目的とします。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	音の様々な特徴（大きさ，高さ，音色，音源の位置など）を我々はどのように知覚しているのかについて理解を深め，他者に分かりやすく説明できるようになることを授業の目標とします。		
授業計画	第1回　導入，音の大きさの知覚（1） 第2回　音の大きさの知覚（2） 第3回　マスキングと臨界帯域（1） 第4回　マスキングと臨界帯域（2） 第5回　音の高さの知覚（1） 第6回　音の高さの知覚（2） 第7回　空間知覚（1） 第8回　空間知覚（2），授業のまとめ 定期試験：筆記および課題		
教科書	吉田友敬（2020）.『言語聴覚士の音響学入門』，海文堂.（2,600円＋税） 上記の書籍のほかに，授業にて適宜資料を配布します。		
参考書	B.J.C.ムーア（著）・大串健吾（監訳）（1994）.『聴覚心理学概論』，誠信書房.（4,500円＋税） 重野純（2014）.『音の世界の心理学（第2版）』，ナカニシヤ出版.（2,600円＋税）		
成績評価の方法・基準	課題30%，筆記試験70%の割合で評価する予定です。授業内容に関わる課題を学期中に出題します。また，授業全体の内容の理解度を確認するための試験を最後に行います。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業では講義に加えて個人またはグループで課題に取り組む時間を設ける予定ですので，積極的に参加してください。また，自分で毎回の課題に取り組むことで授業外でも復習・理解度チェックを行ってください。		
教員紹介	専門は実験音声学，音韻論，言語学，心理言語学です。話し言葉の産出・知覚・学習のプロセスに興味があり，特に外国語の音声を人がどのように発話・聴取・習得するのかについて研究しています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

<table>
<tr><td>学科</td><td>履修対象</td><td>履修時期</td><td>授業の方法</td></tr>
<tr><td>言語聴覚学科</td><td>1学年</td><td>後期</td><td>講義、演習</td></tr>
<tr><td>講義区分</td><td>授業科目名</td><td>担当教員</td><td>単位・時間数</td></tr>
<tr><td>専門基礎分野</td><td>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論</td><td>林義巳（OT）・鎌田小百合（OT）・岩田一鷹（OT）・佐藤籏司（PT）・介護福祉学科教員（CW）</td><td>1単位・30時間</td></tr>
<tr><td>授業の概要
（授業の目的）</td><td colspan="3">リハビリテーション医療における職種と業務を理解するために、介護技術、理学療法と作業療法の知識と技術の修得をする。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標
（学生の行動目標）</td><td colspan="3">介護技術・リハビリテーション・作業療法・理学療法の違い、それぞれの概念、業務内容を理解する。言語聴覚士となるための評価技術、臨床での考察するツールとして取り入れる事ができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業計画</td><td>介護分野</td><td>作業療法分野</td><td>理学療法分野</td></tr>
<tr><td>第1回　介護とは、介護の誕生と歴史的、社会的背景　認知症について
第2回～第3回　実技①②ボディメカニクスについて、ベッド上の介助、移乗、移動介護
第4回～第5回　実技③④
第6回～第7回　実技⑤⑥
シーツ交換、排泄、更衣
定期試験：前期（課題）
※授業順番は変更する可能性があります。</td><td>第1回
身体障害分野の作業療法
第2回
子どもの作業療法
第3回
精神領域の作業療法
第4回
作業分析

定期試験：後期（課題）

※授業順番は変更する可能性があります。</td><td>第1回
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝと理学療法
第2回
運動療法と物理療法について
第3回
姿勢観察と解釈
第4回
介助について

定期試験：後期（筆記）</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td>適宜資料配布</td><td>適宜資料配布</td><td>適宜資料配布</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>指定なし</td><td>指定なし</td><td>椿原彰夫著：『ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論(改訂第2版)』診断と治療社、価格：3,600円+税</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法・基準</td><td colspan="3">介護分野：課題50%
作業療法分野：課題25%
理学療法分野：筆記25%
※介護分野・作業療法分野・理学療法分野を合算し、100%となります。</td></tr>
<tr><td>授業の留意点・授業外の学習活動など</td><td>第2回~第7回までは介護実技の演習となります。髪の毛を束ねて動きやすい服装、運動靴を準備すること。</td><td>身体障害領域、精神障害領域、発達障害の主に3分野のOTの職域について、その特徴把握を追及してください。</td><td>不明な点がありましたら適宜質問してください。</td></tr>
<tr><td>教員紹介</td><td>臨床経験10年以上の介護福祉士が担当します。</td><td>各領域で臨床に携わっていた教員が、現場の話を織り交ぜて講義します。</td><td>理学療法学科専任教員担当します。理学療法の一部分を紹介いたします。</td></tr>
</table>

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害学概論	木村欣司	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚療法の基本概念を習得するために、言語聴覚士の学問領域とその歴史、法律、職業倫理、基本的態度を身につける。また各論を学ぶ際の前段階として、基本的な言語コミュニケーションに関する基礎力を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	言語聴覚士の職務・活動・法律について説明できる。 ことばに関係する脳の活動と関連する発声発語器官を説明できる。 医療人として自覚をもち、人（患者様）と関わることができる。		
授業計画	第1回～第2回：言語聴覚士の適正について 第3回：言語聴覚士について 第4回～第5回：言語聴覚士について及び言語聴覚士法・職業倫理 第6回～第8回：言語聴覚士の業務 第9回～第10回：言語聴覚士の臨床現場の実際 第11回：ことばと脳のしくみ・言語とコミュニケーション 第12回～第13回：バイタルサインについて 第14回：災害リハビリテーションについて 第15回：地域言語聴覚療法について 定期試験：筆記 ※教科書は、今後の学習のため購入していただきます。授業内では、適宜配布資料で対応します。 ※授業内容は他の講義の進行により変更する場合があります。		
教科書	藤田郁代監修：『言語聴覚障害学概論　第2版』医学書院、価格5,500円＋税		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	医療人として、また言語聴覚士を目指す者として大事な科目です。一緒に理解を深めていきましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として、実務経験をもつ教員が学生に対し、言語聴覚療法に関わる前段階である、言語聴覚士の成り立ちや法律、倫理、医療人としての基本的態度などを学習する科目です。また、今後の言語聴覚療法各論の理解を促進するために、本科目では言語聴覚療法で携わるすべての障害を紹介する。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害診断学	木村欣司・学科教員	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	言語聴覚臨床の核となる、評価・診断の手続きと解釈ができるようになるために、言語聴覚療法で取り扱う検査の施行・注意点・解釈を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	① 言語聴覚士の臨床と検査の位置づけを説明できる。 ② 各言語聴覚検査の意義が説明できる。 ③ 各言語聴覚検査が施行できる。 ④ 各言語聴覚検査の結果から障害像を説明できる。		
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：言語聴覚療法の流れ 第3回：知能検査（WAIS-third・forth・Kohs・REVEN） 第4回：知能検査（WAIS-third・forth・Kohs・REVEN） 第5回：知能検査（WAIS-third・forth・Kohs・REVEN） 第6回：知能検査（手続き・解釈） 第7回：知能検査（手続き・解釈） 第8回：知能検査（手続き・解釈） 第9回：前頭葉機能検査（ストループテスト・トレールメイキングテスト） 第10回：手続き・解釈 第11回：前頭葉機能検査（仮名ひろいテスト・前頭葉機能検査（FAB）） 第12回：手続き・解釈 第13回：記憶検査（WMS-R・リバーミード行動記憶検査） 第14回：手続き・解釈 第15回：記憶検査（Benton視覚記銘検査・Rey複雑図形検査） ＊他の講義との関連で、実施検査が変更になる場合があります。		
教科書	適宜資料配布		
参考書	藤田郁代監修：『言語聴覚障害学概論第2版』医学書院、価格：5,000円＋税		
成績評価の方法・基準	確認試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	紹介する検査は高頻度のものです。講義外時間にも学生各自、検査施行・解釈を行うようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の言語聴覚療法領域での実務経験をもつ教員が学生に対し、言語聴覚士で扱う検査の概要や施行方法、症例を通じた統合解釈を行う科目です。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期・後期	講義・実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	コミュニケーション技能演習	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁 実習指導者	2単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚士に必要とされる基本的コミュニケーションとコミュニケーション技能（スキル）の在り方を理解し、実習を通して発展させる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・コミュニケーションの成り立ち、方法、技能が説明できる。 ・相手の話を傾聴し、共感することができる。 ・非言語情報を読み取り、相手への理解を深めることができる。 ・相手に合わせた伝達方法が説明できる。 ・良好な人間関係に与える影響が説明できる。 ・実習を通してコミュニケーション技能（スキル）について発展させることができる。		
授業計画	コミュニケーションは他者と関わりにおいて必要不可欠である。言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能（スキル）の在り方について理解を深め、実践学習として実習を行う。さらに実際のコミュニケーションを通してその技能の向上についてディスカッションを行う。 第1～2回　オリエンテーション／コミュニケーションとコミュニケーションスキル 第3回　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 第4～5回　傾聴／傾聴を活かしたコミュニケーション 第6～7回　正しく伝えること・相手にわかりやすく伝えることの重要性 第8回　協調性 第9～10回　実習に向けて（目的・内容・記録の方法等） 第11～12回　言語聴覚士に必要なコミュニケーションスキル 第13～24回　コミュニケーション技能演習（実習） 第25～30回　グループディスカッション・発表・総括		
教科書	プリント随時配布		
参考書	1）山口美和：PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド 第2版、医学書院、価格2,800円＋税 2）松村真司・箕輪良行編集：コミュニケーションスキル・トレーニング～患者満足度の向上と効果的な診療のために～、医学書院、価格3,500円＋税		
成績評価の方法・基準	実習成績・実習記録（50%）、レポート課題（20%）、発表・発表資料（30%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習を通して「言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能を学ぶこと」を念頭におき、実習時は意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。		
教員紹介	言語聴覚士の経験をもつ学科教員と実習施設における実習指導者が、基本的コミュニケーションとコミュニケーション技能（スキル）について講義・演習と実践を通してコミュニケーションの在り方を指導します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期・後期	講義・実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	コミュニケーション障害演習	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁 実習指導者	2単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	・コミュニケーションに障害のある方と関わるうえで必要とされるコミュニケーション技能を学習し、実習を通して発展させる。 ・言語聴覚臨床に接し、臨床の実際を学習する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士が関わるコミュニケーション障害について、その概要が説明できる。 ・臨床見学において、適切な態度や行動（挨拶・言葉遣い等）をとることができる。 ・言語聴覚臨床に接し、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割について理解し、説明することができる。 ・言語聴覚臨床に接し、コミュニケーションに障害のある方に対する適切なコミュニケーション技能について理解し、実践することができる。 ・言語聴覚臨床に接し、臨床観察の視点で客観的に記録することができる。 ・実習を通して、コミュニケーションに障害のある方と関わるうえで必要とされるコミュニケーション技能について発展させることができる。		
授業計画	言語聴覚臨床の実際を学習したのち、コミュニケーションに障害のある方との関わりを通して、言語聴覚士に必要なコミュニケーション技能について理解を深める。さらに、その技能の向上についてディスカッションを行う。 第1～2回　オリエンテーション／言語聴覚士の職域と役割について 第3～10回　言語聴覚臨床の実際 ※言語聴覚士が携わるコミュニケーション障害や病院・施設における言語聴覚士の役割等について学習する。 第11～12回　臨床観察の視点と記録の取り方 第13～24回　コミュニケーション障害演習（実習） 第25～30回　グループディスカッション・発表・総括		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	実習成績・実習記録（50%）、レポート課題（20%）、発表・発表資料（30%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習を通してコミュニケーションに障害のある方と関わることを念頭におき、実習時は意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。		
教員紹介	言語聴覚士の経験をもつ学科教員と病院や介護老人保健施設等に勤務されている言語聴覚士、実習施設における実習指導者が、講義・演習と実践を通して言語聴覚臨床の実際について指導します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語聴覚障害学演習	木村欣司・西片裕 山﨑暁・鈴木真生	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・臨床の流れ（臨床思考過程）を学習し、失語症、高次脳機能障害、ディサースリア、摂食嚥下障害における検査・評価の目的と内容について、臨床家として必要な基礎的な能力を身につける。 ・これまで学習した知識・技能を統合する力と考察力を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・臨床の流れ（臨床思考過程）について理解し、説明できる。 ・障害仮説の考え方を理解し、説明できる。 ・各領域に関連する検査の目的、内容、実施手続きを理解し、手順通りに実施できる。 ・評価の流れについて理解し、検査結果の分析と情報を統合し、考察できる。 ・実習で必要な身だしなみ、言葉遣い、対象者やご家族、指導者、他職種に対する配慮等、臨床家として必要なコミュニケーション技能を理解し、実施できる。		
授業計画	・実習Ⅰ（評価実習）に向けて総合的な演習を行う。 ・対象者の症状や障害像の捉え方について演習を交えて学習する。 ・実習に必要な基礎知識や情報を統合し解釈する能力、検査手技が備わっているか確認するため、筆記試験と実技試験を行う。 第1～2回　臨床の流れ（臨床思考過程）について 第3回　実習Ⅰ（評価実習）の進め方 第4～5回　失語症 第6～7回　高次脳機能障害 第8～11回　ディサースリア 第12～15回　摂食嚥下障害 筆記試験（失語症・高次脳機能障害／ディサースリア・摂食嚥下障害） 実技試験（失語症・高次脳機能障害／ディサースリア・摂食嚥下障害に関わる各種検査） ※授業の順番は変更になる場合がある。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の 方法・基準	筆記試験（50%）・実技試験（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	・実習Ⅰ（評価実習）前の総復習となるため、各自主体的に取り組むこと。 ・本科目内では検査練習は実施しないため、実習前に各自で行うこと。		
教員紹介	20年以上、教員として学生教育に携わってきた学科教員全員が担当します。臨床経験や教員経験で得たことをふまえ、基礎理論や症状や障害像の捉え方、評価の在り方について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 Ⅰ（概論）	山﨑　暁 西片　裕	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・神経心理学としての高次脳機能障害の大綱を学び、「脳の構造」と「こころ」の相関関係を理解する。 ・高次脳機能障害領域におけるリハビリテーションを理解する。 ・半側空間無視の症状、病巣、メカニズム、リハビリテーションを理解する。 ・失語症の歴史を知る。言語機能の局在と言語処理過程を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・大脳の機能局在と側性化している高次脳機能について説明できる。 ・高次脳機能障害に対するリハビリテーションについて説明できる。 ・半側空間無視の症状、病巣、メカニズム、リハビリテーションを説明できる。 ・失語症の歴史がわかる。言語機能の局在と言語処理過程を説明できる。		
授業計画	第1回：高次脳機能障害の基本概念、高次脳機能障害の背景症状 第2回：高次脳機能障害のリハビリテーション、「脳の構造」と「こころ」の相関関係 第3回：ニューロンの構造と脳の構造（神経細胞と神経線維の分布）、ブロードマンの脳地図とペンフィールドの機能地図、大脳の栄養血管 第4回：前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の主な機能 第5回：失語症の歴史、大脳における言語機能の局在 第6回：言語処理過程 第7回：半側空間無視の症状と病巣 第8回：半側空間無視のメカニズムとリハビリテーション 定期試験：筆記		
教科書	藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第3版，医学書院，2015年，価格4,800円＋税		
参考書	山鳥重，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（1）基礎知識のエッセンス，医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,600円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	高次脳機能障害を理解することは言語聴覚士にとって重要な要素の一つです。復習をおろそかにせず、わからないことはできるだけその日のうちに解決しましょう。講義中の質問も歓迎します。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、学生に対し神経心理学としての高次脳機能障害の大綱と、「脳の構造」と「こころ」の関係について講義をします。また、失語症研究の歴史や、大脳における言語機能の局在、言語が大脳でどのように情報処理されているのかについて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学Ⅱ （失語・高次脳機能障害）	西片　裕 山﨑　暁	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・失語症の症状とその機序について理解する。 ・多彩な高次脳機能障害の症状とその機序について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症状と機序を理解し、説明できる。 ・代表的な高次脳機能障害の症状と機序を理解し、説明できる。 ・脳梁離断によって出現する症状と機序を理解し、説明できる。		
授業計画	第1～7回：失語症状 第8回：構文理解・構文産生障害 第10回：視覚性失認・視空間認知障害 第11回：聴覚失認と触覚失認、身体失認・病態認知の障害 第12回：行為・動作の障害 第13回：前頭葉症状と脳梁離断症候群 第14回：記憶の障害 第15回：認知症に関連する高次脳機能障害 定期試験：筆記		
教科書	藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学 失語症学，第3版　医学書院，2020年，5000円＋税 藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学　高次脳機能障害学　第3版，医学書院， 2020年，価格4,800円＋税		
参考書	紺野加奈江：失語症言語治療の基礎，診断と治療社，2001年，3500円＋税 山鳥重，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（1）基礎知識のエッセンス， 医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,600円＋税 三村將，他：高次脳機能障害マエストロシリーズ（2）画像の見方・使い方， 医歯薬出版株式会社，2007年6月10日，価格2,800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（失語分野50%・高次脳機能障害分野50%） ＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	適宜プリントを配布し、それに基づいて講義します。プリントは大量になるため、失語分野・高次脳機能障害分野を各々専用にファイリングするようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、失語症の症状とその機序、および多彩な高次脳機能障害の症状とその機序について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 Ⅲ（評価）	西片　裕 山﨑　暁	4単位・60時間
授業の概要 （授業の目的）	・インテーク面接からスクリーニング検査の内容と方法を理解する。 ・失語タイプや重症度などについて学び、その判定方法を理解する。 ・各種失語症検査の目的と実施方法、結果の解釈方法を理解する。 ・多様な高次脳機能障害の病態をとらえ有益なリハビリテーションができるようになるために、各種検査の実施方法・解釈方法を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・インテーク面接表とスクリーニング検査を作成し、使用できる。 ・タイプと重症度の判定ができる。各種失語症検査の実施方法を理解し、実施できる。反応を正しく記録し、その結果から言語評価と考察ができる。 ・多様な高次脳機能障害の検査の種類と鑑別点が理解できる。 ・各種検査の実施および検査結果をまとめることができる。 ・複数の検査結果を解釈し、病態を考察できる。		
授業計画	失語・高次脳機能障害の評価と検査方法を解説します。検査が実施できるようになるために、復習や自己練習が不可欠です。結果の解釈と考察のやり方を説明します。解釈と考察ができるようになるために、症例検討を行います。 第1回：言語評価の内容 第2～4回：失語タイプ・純粋例・読み書き障害・その他の失語の判定方法 第5回：情報収集、インテーク面接、スクリーニング検査 第6回：ICF、目標、検査実技テストのルーブリック作成 第7～12回：SLTAの実施方法、解釈と考察、失語症例呈示 第13～15回：重度失語症検査、CADL、WAB失語症検査、掘り下げ検査 第16回：高次脳機能障害領域の評価の捉え方 第17～18回：リバーミード行動記憶検査、ウエクスラー記憶検査 第19～20回：記憶障害の症例提示　検査結果の解釈とICFに基づくまとめ 第21～22回：標準高次動作性検査、標準高次視知覚検査　解釈とまとめ 第23～24回：BIT行動性無視検査、BITの結果解釈とまとめ 第25～27回：CAT・CAS、症例提示　検査結果の解釈とICFに基づく評価 第28～29回：遂行機能障害の行動検査 第30回：臨床認知症評価法：CDR（Clinical Dementia Rating） 定期試験：筆記		
教科書	都築澄夫監修・大塚裕一著：明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断－初回面接・スクリーニングを中心に－，医学と看護社，2016年，3900円＋税		
参考書	小嶋知幸編著：失語症の評価と治療，金原出版，2010年，4800円＋税		
成績評価の方法・基準	失語分野：レポート（50%） 高次脳機能障害分野：筆記試験（50%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	検査を実施できるまで自己練習することが必須です。細かい点でも遠慮せずに質問してください。覚える検査が多いので、計画的に取り組んでください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、インテーク面接や各種検査の実施方法・解釈方法を講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅰ(概論)	学科教員	1単位・15時間
授業の概要 (授業の目的)	発達障害についての全体像を理解し、各障害タイプの診断基準・特性・言語障害を知ることで、今後の各論に生かすことができるようにする。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	①言語発達障害の要因と障害タイプについて理解することができる 定型言語発達について説明することができる ②DSMとICDについて理解することができる ③各障害の診断基準・障害特性・言語障害について説明することができる ④言語発達障害の臨床の流れを理解し、児とご家族への適切な支援について考えることができる		
授業計画	第1回　発達障害についての基礎知識(目標①) DSMとICD(目標②) 第2回　知的能力障害(目標③) 第3回　コミュニケーション障害(目標③) 第4回　自閉症スペクトラム障害(ASD)(目標③) 第5回　注意欠陥・多動性障害(ADHD)(目標③) 第6回　限局性学習障害(目標③) 第7回　脳性麻痺・重複障害・運動障害(目標③) 第8回　言語発達障害の臨床(目標④) 定期試験：筆記		
教科書	・藤田ら『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版』医学書院		
参考書	・石田、石坂『言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版』医歯薬出版 (講義中には使いませんが、配布資料の引用・参考文献として使用します)		
成績評価の方法・基準	定期試験100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中に質問することもありますので、自分の意見を述べてください。		
教員紹介	小児臨床に携わる学科教員が臨床知識を交えて講義を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅱ （自閉症スペクトラム障害）	重森　知奈	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	自閉症スペクトラム障害の幼児・児童に対し、言語コミュニケーション支援を行うために、行動特性について理解するとともに、その評価法や障害特性に適した支援法や環境的配慮について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・自閉症スペクトラム障害の診断基準を記述できる。 ・自閉症スペクトラム障害の行動特徴を理解し、言語コミュニケーション場面での困難さを考察できる。 ・自閉症スペクトラム障害のある子どもに対し、言語コミュニケーションや環境を考慮した支援法を立案できる。		
授業計画	第1回　自閉症スペクトラム障害の概念と定義 第2回　自閉症スペクトラム障害の歴史的変遷 第3回　自閉症スペクトラム障害の行動的特徴と診断 第4回　自閉症スペクトラム障害の行動的特徴と診断 第5回　自閉症スペクトラム障害の評価・検査 第6回　自閉症スペクトラム障害の評価・検査 第7回　自閉症スペクトラム障害児への指導・訓練 第8回　自閉症スペクトラム障害児への指導・訓練 定期試験：筆記		
教科書	・藤田郁代（監）．深浦順一，藤野博，石坂郁代（編）：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版．医学書院．2021.		
参考書	・石田宏代，石坂郁代（編）：言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版．医歯薬出版．2016. ・ローナ・ウィング：自閉症スペクトル 親と専門家のガイドブック．東京書籍．1998.		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	積極的に授業に参加をすること		
教員紹介	帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科教員		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅲ （知的発達障害）	水戸陽子	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	知的能力障害を理解した上で、その子どもの知能、言語、コミュニケーションの症状と評価に基づき、適した支援プログラムを考えられるようになる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	1. 知的能力障害を理解する。 2. 知的能力障害のある子どもの知能、言語、コミュニケーションの評価ができる。 3. 知的能力障害のある子どもの支援の考え方を理解する。		
授業計画	第1回　知的能力障害総論 （医学的背景と診断基準・遺伝性疾患とその他の症候群など） 第2回　知的能力障害における言語・コミュニケーションの特徴 第3回　知的能力障害児の評価① （発達検査・知能検査・言語発達の検査・対人面の評価） 第4回　知的能力障害のある子どもの評価②（総合評価） 第5回　知的能力障害のある子どもの指導・支援① （発達段階に即した支援） 第6回　知的能力障害のある子どもの指導・支援② （認知能力・特性を考慮した支援） 第7回　事例を通して学ぶ知的能力障害のある子どもへの支援① 第8回　事例を通して学ぶ知的能力障害のある子どもへの支援② 定期試験：筆記		
教科書	・配布資料 ・玉井ふみ, 深浦順一編　言語発達障害学（第3版）医学書院 5,000円+税		
参考書	・石坂郁代, 水戸陽子編 最新言語聴覚学講座 言語発達障害学 医歯薬出版株式会社　4, 500円+税 ・大石敬子,田中裕美子編 言語聴覚士のための事例で学ぶことばの発達障害　医歯薬出版株式会社4, 500円+税		
成績評価の方法・基準	講義や集団討論への参加態度、記述式テストなどで総合的に評価（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義は、講義形式のほか集団討論を含む 個人のパソコンの使用可 タブレット・電子機器系による講義・スライド資料の撮影不可		
教員紹介	言語聴覚士として、成人対象の病院と地域の療育センターで実務経験を積みました。現在は、大学病院で小児臨床に携わりつつ、ST養成校の教員をしています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅳ （限局性学習障害）	中塚　誠	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・読み書きが苦手な児に対し適切な環境調整や言語・コミュニケーション支援を行うために、限局性学習障害の診断基準や認知特性、特性に合った支援の仕方を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・行動観察や検査結果から認知特性と読み書きに関する問題点との関連や、二次障害/併存症の合併について考察できる。 ・さまざまな支援方法を理解し、読み書き障害の改善に向けて対象者の特性に合った支援法を選択できる。		
授業計画	第1回　限局性学習障害の定義・診断基準、発達性ディスレクシア 第2回　原因・発生機序の仮説 第3回　臨床症状 第4回　検査・評価 第5・6回　治療的介入 第7回　併存症・二次障害 第8回　算数障害 定期試験：筆記		
教科書	プリント随時配布		
参考書	・特異的発達障害の臨床診断と治療指針作成に関する研究チーム：『特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン』診断と治療社、3,800円＋税 ・小池敏英／雲井未歓／窪島務（編著）：『LD児のためのひらがな・漢字支援　個別支援に生かす書字教材』あいり出版、3,200円＋税		
成績評価の方法・基準	・定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	・資料に記載していない内容についても話をします。 ・講義中の問いかけやグループディスカッションでは、自分の考えや意見を持つように努めてください。		
教員紹介	言語・コミュニケーション訓練や、特別支援学級・特別支援学校での教育支援、言語相談等を行ってきた言語聴覚士が、学生に対し、読み書き障害の改善に向けて対象者の特性に合った支援法を選択できるようになるために、読み書き能力の発達過程や具体的な支援法などについての講義を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅴ （脳性麻痺・小児嚥下）	坂口しおり・谷本式慶	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	学生は、言語聴覚士の支援領域である脳性まひ、小児嚥下について基本的な知識及び基礎的な技術への理解を促すことが必要です。 脳性まひや小児言語を理解し、適切な支援を行うためにこの講義では、ＳＴの基本的な脳性まひ児の支援場面や支援の基礎となる健常児発達の理解、障害特性の理解、実際の言語的な支援、小児への摂食について、映像を用いて説明します。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・脳性麻痺や嚥下に関する基礎的な知識を身につける。 ・脳性麻痺児の行動の読み取り、推察能力を高める。		
授業計画	第1回　脳性まひの定義と病態 第2回　運動障害児の言語指導 第3回　健常児の言語発達 第4回　重度運動障害児の言語臨床 第5回　インリアル・アプローチ 第6回　運動障害児の言語臨床 第7回　AAC（拡大・代替コミュニケーション） 第8回　小児嚥下の考え方と食形態、口腔機能、嚥下臨床 定期試験：筆記 ※講義内容や順番が変更となることがあります。		
教科書	・坂口しおり：絵で見ることばと思考の発達、ジアース教育新社、価格：1,200円＋税 ・坂口しおり：コミュニケーション支援の世界、ジアース教育新社、価格：2,000円＋税		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）参考書等の持ち込み不可。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業を阻害する行為をした場合、単位は付与しない。		
教員紹介	特別支援学校に勤務する教員が授業展開し、脳性麻痺患者や小児嚥下患者の実際を伝えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学VI （検査・評価）	馬目　雪枝	専門分野
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚士は対象児の現在の状態を客観的、具体的に把握するために発達検査、知能検査、言語検査などを実施する。この科目では、適切に検査の選択ができるように、各種検査の特性を正しく理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	言語聴覚士に係る発達検査、知能検査、言語検査がわかる。 各種検査によって得られる情報がわかる。 検査結果を適切に解釈できる。 対象児について、問診により得られた情報と実施した検査の結果を合わせて、全体像を記述することができる。		
授業計画	第1回　評価（検査）の目的と方法 第2回　初回の情報収集 第3回　種々の発達検査 第4回　発達検査演習 第5回　種々の知能検査 第6回　知能検査演習① 第7回　知能検査演習② 第8回　種々の言語検査 第9回　言語検査演習① 第10回　言語検査演習② 第11回　言語検査演習③ 第12回　ケーススタディ①初回問診→検査の選択 第13回　検査結果記録→結果の解釈 第14回　ケーススタディ②初回問診→検査の選択 第15回　検査結果記録→結果の解釈		
教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版		
参考書	適宜、紹介します。		
成績評価の方法・基準	提出物30%、筆記試験70%		
授業の留意点・授業外の学習活動など			
教員紹介	日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科専任教員 （併設新宿ことばの相談室室長）		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅰ （概論）	中塚誠・木村欣司 鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・発声発語障害と摂食嚥下障害の概要が理解できる。 ・それぞれの障害の原因や発生メカニズム、症状の違いが理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・話しことばと摂食嚥下の発達機序が説明できる。 ・各障害（機能性構音障害・器質性構音障害・ディサースリア・音声障害・流暢性障害・摂食嚥下障害）の基本的概念（定義・原因・発生メカニズム等）と症状が説明できる。 ・それぞれの障害の違いが説明できる。		
授業計画	概論は各論の土台になります。各障害の基本的概念（定義・原因・発生メカニズム等）と症状の概要について理解を深めてください。 第1回　話しことばの発達機序（担当：中塚） 第2回　機能性構音障害（担当：中塚） 第3回　器質性構音障害（担当：中塚） 第4回　流暢性障害（吃音を含む）（担当：中塚） 第5回　ディサースリア（担当：鈴木） 第6回　音声障害（担当：鈴木） 第7回　摂食嚥下障害（担当：木村） 第8回　摂食嚥下障害（担当：木村） 試験 ※授業の順番は変更になる場合があります。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	1）藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学シリーズ「言語聴覚障害学概論」第2版，医学書院，2010年，価格5,000円＋税 2）藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学シリーズ「発声発語障害学」第2版，医学書院，2015年，価格5,000円＋税		
成績評価の 方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	発声発語・嚥下障害領域では、様々な障害について学習する。能動的に授業に臨み、わからないことは遠慮せずに質問すること。		
教員紹介	中塚誠：言語・コミュニケーション訓練や、特別支援学級・特別支援学校での教育支援、言語相談等を行ってきた経験をふまえ講義を行います。 木村欣司：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科 鈴木真生：多摩リハビリテーション学院専門学校　言語聴覚学科		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅱ （小児系発話障害）	鈴木圭子	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	小児構音障害の評価・訓練を実施することができるようになるために、構音障害の定義と分類を理解し、検査結果のまとめと訓練の立案について学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	①発声発語のメカニズムについて理解する 構音障害の定義について説明できる 国際音声記号を用いて、構音を表記できる ②言語・音韻・構音の正常発達について理解する ③機能性構音障害の定義を説明し、誤り方を分類することができる ④機能性構音障害の検査を実施し、結果の分析をすることができる ⑤器質性構音障害の定義を説明し、原因疾患を理解することができる 器質性構音障害の音の誤り方を説明することができる ⑥器質性構音障害の検査を実施し、結果の分析をすることができる ⑦構音障害の鑑別診断、予後の推定、訓練適応について説明することができる 構音障害の発達時期にあった治療・訓練法について説明することができる ⑧構音障害の訓練を立案し、実施することができる ⑨構音障害の臨床について理解することができる ご家族支援について理解することができる		
授業計画	第1回	構音障害の基礎(目標①)	
	第2回	正常な構音・音韻発達(目標②)	
	第3・4回	機能性構音障害の定義と音の誤り方の分類(目標③)	
	第5・6回	機能性構音障害の評価(目標④)	
	第7回	器質性構音障害の定義と原因疾患・誤り方の分類(目標⑤)	
	第8回	器質性構音障害の評価(目標⑥)	
	第9・10回	構音障害の治療・訓練(目標⑦)	
	第11・12回	構音障害の訓練立案(目標⑧)	
	第13・14回	構音障害の訓練演習(目標⑧)	
	第15回	構音障害の臨床(目標⑨) 試験（試験は講義回数に含みません）	
教科書	・熊倉、今井『標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版』医学書院 ・阿部『構音障害の臨床 改定第2版』金原出版		
参考書	・本間『言語聴覚療法シリーズ 改訂 機能性構音障害』建帛社 ・岡崎『口蓋裂の言語臨床 第3版』医学書院 ・道『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 第2版』医歯薬出版 （講義中には使いませんが、配布資料の引用・参考文献として使用します）		
成績評価の方法・基準	定期試験100%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習の授業では、フェイスシールドを準備して下さい。		
教員紹介	日本福祉教育専門学校専任教員		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅲ （成人系発話障害）	鈴木真生	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・ディサースリアの定義・原因・タイプ・症状・評価を学び、その臨床像が理解できる。 ・標準ディサースリア検査の目的・検査項目の捉え方・検査結果の分析方法が理解できる。 ・症例の発話特徴から、その特徴を捉え、障害像が理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・他のコミュニケーション障害との違いを理解し、定義が説明できる。 ・タイプ別の特徴（病態生理・発話特徴・機能障害等）を理解するとともに、原因および損傷部位との関連が説明できる。 ・臨床像を捉えるうえで必要な運動系の基礎が理解できる。 ・標準ディサースリア検査の結果から障害仮説を立てることができる。 ・症例の発話特徴を捉え、発声発語器官の病態生理が考察できる。		
授業計画	◆ディサースリアは小児・成人いずれでも起こりうるが、本講義では成人領域を中心に行う。 ◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 第1～2回　オリエンテーション・基礎理論（定義等） 第3～5回　一般的特徴（原因・タイプ・症状等） 第6～10回　運動系の基礎理論（中枢神経系・末梢神経系・筋系等） 第11～15回　評価（流れ・標準ディサースリア検査・検査結果のまとめ・問題点の捉え方・訓練目標等） 試験 ※レポート課題は「運動系の基礎理論」終了時に提示予定。		
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）西尾正輝：標準ディサースリア検査［新装版］、インテルナ出版、価格5,700円＋税		
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,400円＋税 2）馬場元毅：絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第4版、医学書院、価格2,800円＋税 3）新美成二監訳：発話メカニズムの解剖と生理、インテルナ出版、価格2,800円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（60%）、小テスト（10%）、レポート課題（30%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	ディサースリアの障害像を理解するためには、「発声発語器官の解剖生理」の理解が不可欠である。「音声言語聴覚医学（呼吸発声発語系）」の授業内容をしっかり復習して臨むこと。		
教員紹介	25年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの基礎理論や評価、障害像の捉え方について講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学 Ⅴ（摂食嚥下障害）	木村欣司	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	摂食・嚥下障害の有無や程度、要因等を評価するために、嚥下に携わる身体の動き学び、そこから異常な動きを検出する方法を習得する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・正常の摂食・嚥下過程について理解する。 ・摂食・嚥下の病態について理解する。 ・摂食嚥下機能評価・スクリーニング検査（活動評価）が実施できる。		
授業計画	第1回：イントロダクション　嚥下障害とは 第2～3回：正常な摂食嚥下の構造と機能 第4～5回：摂食嚥下に関する感覚・運動の神経について 第6～7回：摂食嚥下のメカニズム 第8回：摂食嚥下障害の原因（静的・動的・その他） 第9回：摂食嚥下障害で起こる問題 第10～11回：摂食嚥下器官の運動と感覚検査 第12回：摂食嚥下に関するスクリーニング検査 第13回：検査からの統合解釈 第14回：摂食嚥下障害の精密検査 第15回：摂食嚥下障害の重症度分類 定期試験：筆記 ※対面講義とオンデマンド動画視聴のハイブリッド講義を取り入れます。 ＊他の講義との関連で、講義内容を変更する場合があります。		
教科書	藤田郁代監修：『標準言語聴覚障害学　摂食嚥下障害学　第2版』医学書院、　価格：5,000円＋税		
参考書	講義内で随時紹介		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	「口から食べることの重要性」を理解し、患者様の口の健康や食のQOL向上に力を添えられるようしっかり勉強しましょう。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が、学生に対し摂食・嚥下障害の有無や程度、要因等を評価するために、正常な嚥下に携わる身体の動き学ぶことで、嚥下障害にみられる異常な状態を検出する方法を習得させる科目です。		

2023年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅰ（概論）	岡野　由実	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	専門分野の基礎的知識を身につけるため、聴覚障害の概要を理解する。 聴覚障害領域における言語聴覚士業務について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	聴覚障害の特徴を説明できる。 言語聴覚士における聴覚障害児・者への支援について説明できる。		
授業計画	第1回　「オリエンテーション」 第2回　「聴覚器官の構造と機能（概要）」 第3回　「難聴とオージオグラム」 第4回　「難聴の程度と種類、聞こえの特徴」 第5回　「各種聴覚検査（内容と目的）」 第6回　「補聴器と人工内耳」 第7回　「成人の聴覚臨床」 第8回　「小児の聴覚臨床」 定期試験：課題		
教科書	プリント随時配布		
参考書	城間将江 他（編集）:『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』医学書院、価格：5,200円＋税 立木孝（監修）:『聴覚検査の実際 改訂4版』南山堂、価格：3,400円＋税 宇佐美真一（編）:『きこえと遺伝子 難聴の遺伝子診断とその社会貢献 改訂第2版』金原出版、価格：3,800円＋税		
成績評価の方法・基準	課題100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	本講義では臨床ビデオを用いて実施します（本人および保護者の了解済）。 講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意してください。		
教員紹介	言語聴覚士として、療育センターや耳鼻咽喉科クリニックなどにおいて聴覚領域の臨床経験を持つ教員が、医学・教育・心理・補聴技術といった多領域に渡る内容を、実際の症例や臨床ビデオを交えながら臨床の視点から講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅱ （成人聴覚障害）	坂本　圭	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・聴覚機能を適切に評価するための諸検査・方法について理解する。 ・成人聴覚障害者が抱える困難やその背景を理解したうえで、適切な評価・訓練方法の立案を可能にする。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・各種聴覚機能検査を理解し施行することができる。 ・聴覚検査について理解し、結果から聴覚機能評価ができる。 ・成人聴覚障害者が抱える困難を理解し、評価、訓練方法を立案できる。		
授業計画	第1回　聴覚領域に関する解剖・生理学、聴覚心理学に関する基礎 第2回　聴覚障害の種類、聴覚検査種類 第3-4回　標準純音聴力検査（理論・演習） 第5-6回　語音聴力検査・その他の聴力検査（理論） 第7-8回　語音聴力検査・その他の聴力検査（演習） 第9-10回　実技試験 第11回　聴覚障害の影響とライフステージ・心理的側面 第12回　平衡機能検査 第13回　聴覚障害評価のまとめ 第14回　リハビリテーションⅠ 第15回　リハビリテーションⅡ 定期試験：筆記および実技		
教科書	プリント随時配布		
参考書	・城間将江ら（編）:「聴覚障害学　第3版」医学書院 ・原 晃（監）・日本聴覚医学会（編）:『聴覚検査の実際 改訂4版』南山堂		
成績評価の方法・基準	筆記試験80%（持込み不可）、実技試験20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	聴覚領域における検査・訓練を理解するためには、解剖学、生理学、音響学聴覚心理学に関する知識が必要です。他の講義内容をしっかり復習してください。		
教員紹介	大学病院の耳鼻咽喉科に言語聴覚士として、勤務している教員が、成人の聴覚障害を評価・訓練立案ができるようになるために講義・演習を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅲ （小児聴覚障害）	氏田直子	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	小児聴覚障害の臨床の基礎となる、乳幼児の聴力検査や聴覚の評価を理解し、検査方法を学び、技術を身につける。難聴発見直後の支援となる補聴器や人工内耳の調整及び聴覚活用の方法の基礎を理解し、聴覚の評価や活用の基礎的技能を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・聴覚の発達と小児聴覚障害の特徴を理解し、説明できる。 ・乳幼児聴力検査について理解し、基本的な検査ができる。 ・小児の補聴機器適合評価や聴覚活用方法について理解し、説明できる。		
授業計画	第1回　聴覚の発達、小児聴覚障害の特徴 第2回　小児聴力検査法 第3回　小児聴力検査（演習） 第4回　小児聴力検査結果の評価 第5回　小児への補聴機器の調整の基礎 第6回　小児の補聴機器の適合評価 第7回　小児の聴覚活用・聴覚学習 第8回　聴覚補償の可能性と限界		
教科書	立木孝：「聴覚検査の実際　改訂4版」南山堂　3,400円＋税 城間将江他：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学第3版」医学書院　5,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	定期試験（筆記試験80%）と2回ずつの講義終了後に提出する4枚の聴講票（20%）で評価		
授業の留意点・授業外の学習活動など	教科書を丁寧に読みましょう。知識や技術を学ぶだけでなく、実際に「できる」ようにするには、時間と練習が必要です。最初からできなくても焦らずに、自分自身に対しても粘り強く励ましながら、学習と練習を積み重ねてください。		
教員紹介	病院の耳鼻咽喉科の言語聴覚士として、乳幼児から高齢者までの聴覚リハビリテーションを担当した後、言語聴覚士養成大学の聴覚領域の専任教員として勤務、現在はフリーランスで相談を中心に、難聴児専門の児童発達支援センター・放課後等デイサービスでも支援をしています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	1学年	後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	実習Ⅰ（評価実習）	鈴木・木村欣司 西片裕・山﨑暁 実習指導者	3単位・120時間
授業の概要 （授業の目的）	・評価実習指導者の指導を受けながら、対象者の全体像ならびに生活機能と障害の捉え方を学ぶ。 ・臨床の流れ（臨床思考過程）をふまえ、対象者に対する言語聴覚療法評価、生活機能と障害の整理、評価の報告などの一連の言語聴覚療法を学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・対象者の情報を収集することができる。 ・対象者に必要な検査や行動観察を適切に行うことができる。 ・対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ・対象者の全体像ならびに生活機能と障害について整理することができる。 ・訓練目標（主目標・副目標）を立てることができる。 ・要点を押さえた記録、根拠にもとづいた評価報告ができる。 ・観察力を身につけ、考える力を養うことができる。 ・自分の考えを言語化し、相手に伝えることができる。 ・実習経験をふまえ、臨床の流れ（臨床思考過程）を説明することができる。		
授業計画	【実習日程：予定】　※2024年2月時点（実習日程は変更する場合がある） Ⅰ期：2025年2月3日（月）～2025年2月22日（土） Ⅱ期：2025年2月24日（月）～2025年3月15日（土） ※学生は2グループに分け、Ⅰ期・Ⅱ期のいずれかで実習を行う。 【実習時間】 上記期間のうち120時間（15日間）の実習を行う。 【その他】 ・実習Ⅰ（評価実習）は実習施設で行う。 ・実習前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席する。 ・「実習ガイダンス」にて、実習施設の紹介や実習の概要を説明するとともに、実習配置を発表する。		
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。		
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。		
成績評価の 方法・基準	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。実習成績表については、詳細を別途配布する。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習は、施設側のご厚意と実習指導者の後輩育成に対する熱意、対象者のご協力のもとに成り立つものである。学生は、実習指導者のもとで意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。また、実習に向けて事前準備をしっかり行うこと。		
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が評価実習前・後の指導を行います。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
基礎専門分野	専門基礎分野特論Ⅰ （基礎医学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な医学概論、生理学、病理学、解剖学といった基礎医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、基礎医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と基礎医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、基礎医学領域を理解し、言語化することができる。 ・基礎医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・基礎医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、基礎医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、基礎医学領域は、臨床医学領域や臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な基礎医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：基礎医学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な基礎医学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅱ （臨床医学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な耳鼻咽喉科学、内科学、小児科学、形成外科学、臨床神経学、精神医学、リハビリテーション医学といった臨床医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、臨床医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と臨床医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、臨床医学領域を理解し、言語化することができる。 ・臨床医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・臨床医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、臨床医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、臨床医学領域で扱う疾患は、臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な臨床医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：臨床医学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な臨床医学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅲ （音声言語聴覚医学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な呼吸発語系、聴覚系、神経系といった音声言語聴覚医学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音声言語聴覚医学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音声言語聴覚医学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音声言語聴覚医学領域を理解し、言語化することができる。 ・音声言語聴覚医学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音声言語聴覚医学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、音声言語聴覚医学領域の知識が欠かせない。なぜなら、音声言語聴覚医学領域の解剖・生理・病理の知識は、臨床専門領域との関連が深いためである。よって、言語聴覚士として必要な音声言語聴覚医学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：音声言語聴覚医学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音声言語聴覚医学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	心理測定法	福島和郎	2単位・30時間

授業の概要 （授業の目的）	心理検査や心理学研究の背景にある心理測定の科学的なアプローチを学修し、検査理論や尺度構成の考え方を理解する。今日用いられている種々の検査の特徴を理解する。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・心理検査の仕組みや構成を理解し、説明できる。 ・代表的な検査を種類ごとに分類し、それぞれの特徴を説明できる。 ・測定方法の違いを理解し、検査目的に応じた適切な測定ができる。
授業計画	第1回：心理学における心理測定の歴史 第2回：心理測定の基礎、心理測定の意義 第3回：心理学研究と心理測定、測定に伴う誤差 第4回：評定法、尺度構成法（直接法、間接法）、信頼性と妥当性 第5回：知能の構造、知能の評価、二大知能検査 第6回：ウェクスラー式知能検査の下位尺度および尺度得点 第7回：確認テスト、前半のまとめ 第8回：神経心理検査（認知症および精神障害者のための認知機能検査） 第9回：パーソナリティの評価、特性論と類型論 第10回：質問紙法と投影法、質問紙法パーソナリティ検査 第11回：投影法パーソナリティ検査、作業検査 第12回：閾の概念、閾値の測定、j.n.d.とPSE 第13回：精神物理学的測定法（調整法、極限法、恒常法、適応法、等） 第14回：測定の法則と理論、測定方法のまとめ 第15回：講義内容の総括 　最終試験
教科書	加藤司（著）:『〔改訂版〕心理学の研究法―実験法・測定法・統計法―』北樹出版、2,090円
参考書	市川伸一編（著）:『心理測定法への招待』サイエンス社、2,970円
成績評価の方法・基準	最終試験（90%）、確認テストまたはレポート（10%）
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義形式で毎回プリントを配布し、これにポイントを記入してもらう授業を行います。毎回扱う範囲が広いので、復習を確実に行ってください。
教員紹介	複数の教育機関で講師を務め、病院併設の研究機関で精神障碍者の治験と検査開発にあたり、精神障碍者グループホーム等で臨床実践を行ってきました。心理測定の理論的背景をわかりやすく講義します。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅳ （心理学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な認知・学習心理学、生涯発達心理学、臨床心理学、心理測定法、心理統計法といった心理学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、心理学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と心理学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、心理学領域を理解し、言語化することができる。 ・心理学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・心理学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士には、心理学領域の知識が欠かせない。なぜなら、心理学領域の知識は、言語聴覚士が対象者と向き合ううえで必要であり、心理統計法もまた科学的なリハビリテーションを行ううえで必要不可欠なためである。よって、言語聴覚士として必要な心理学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：心理学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験と研究実績のある教員が、言語聴覚士として必要な心理学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅴ （言語学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語学を理解し、言語化することができる。 ・言語学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって言語学の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な言語学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：言語学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅵ （音声学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な音声学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音声学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音声学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音声学を理解し、音声化することができる。 ・音声学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音声学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって音声学の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な音声学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：音声学に対する学力の自己分析、学習計画の立案、 学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音声学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅶ （音響学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な音響学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、音響学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と音響学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、音響学領域を理解し、アウトプットすることができる。 ・音響学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・音響学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 コミュニケーション障害を対象とする言語聴覚士にとって音響学領域の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な音響学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：音響学領域に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な音響学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門科目	社会保障制度・関係法規	山下望	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	社会保障の基本的な考え方を身につけると共に制度の中身と直近の法改正を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・社会福祉、社会保障の成り立ちや意味を学び、現代社会を分析し、必要性を考察する。 ・制度の概要を把握し、直近の制度変更を学び、身につける。		
授業計画	第1回　社会保障と社会福祉　a考え方（理念・地域福祉・利用者の利益の保護・その他）、 第2回　社会保障と社会福祉　b動向 第3回　社会保障の体系と範囲a社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生および医療（一般保険、学校保健、母子保健、精神保健、老人保健を含む） 第4回　社会保障を構成する各制度　a年金 第5回　社会保障を構成する各制度　b医療保障（医療扶助、公費負担制度を含む） 第6回　社会保障を構成する各制度　c介護保険 第7回　社会保障を構成する各制度　d労働者災害補償制度、e雇用保険、f社会手当（家族手当を含む） 第8回　社会保障を構成する各制度　g公的扶助、h社会福祉、iその他関連制度 第9回　社会福祉の法律と施策および運用　a社会福祉法、b児童福祉法、c老人福祉法 第10回　社会福祉の法律と施策および運用　d障害者基本法、e身体障害者福祉法、f知的障害者福祉法、g精神保健および精神障害者福祉に関する法律、h生活保護法およびその他関連法 第11回　障害者に関する施策と実施体制　a身体障害者手帳等手帳制度、b障害認定、c福祉用具（補装具、日常生活用具、その他）、d障害者計画 第12回　介護保障　a介護保険の給付、b制度の運用、cその他の介護サービス 第13回　社会福祉援助技術　a直接援助技術　1）個別援助技術（ケースワーク）　2）集団援助技術（グループワーク） 第14回　b間接援助技術　1）地域援助技術、2）社会福祉調査法、3）社会福祉運営・管理、4）社会活動法、5）その他の間接援助技術 第15回　cその他の関連専門援助技術　1）ケアマネジメント、2）スーパービジョン、3）カウンセリング、4）ネットワーク、5）その他 定期試験		
教科書	○社会保障の手引2024版　施策の概要と基礎資料；中央法規出版　価格：3,400円+税 ○プリント随時配布		
参考書	特に無し		
成績評価の方法・基準	学期末試験（振り返り）（90%）、章ごとの小テスト（7%）、レポート（3%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	プリント、教科書を使った講義形式、質疑応答も含める。		
教員紹介	特別支援学校教員を4年、障害者福祉サービス経験36年。福祉社会（地域共生社会）を目指しています。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎分野	専門基礎分野特論Ⅷ （社会福祉・教育）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な社会保障制度・関係法規、リハビリテーション概論といった社会福祉・教育領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、社会福祉・教育領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と社会福祉・教育領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、社会福祉・教育領域を理解し、言語化することができる。 ・社会福祉・教育領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・社会福祉・教育領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士として働くうえで、社会福祉・教育領域の知識が欠かせない。よって、言語聴覚士として必要な社会福祉・教育領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：社会福祉・教育領域に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な社会福祉・教育領域の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅰ （言語聴覚障害学総論）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語聴覚障害学概論、言語聴覚障害診断学といった言語聴覚障害学総論領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語聴覚障害学総論領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語聴覚障害学総論領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語聴覚障害学総論領域を理解し、言語化することができる。 ・言語聴覚障害学総論領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語聴覚障害学総論領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な言語聴覚障害学総論領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：言語聴覚障害学総論領域に対する学力の自己分析、学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語聴覚障害学総論領域の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 Ⅳ（訓練）	西片　裕 山﨑　暁	2単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	失語症やその他の高次脳機能障害、認知症に対して適切なアプローチ・リハビリテーションを実施できるようになるために、各種訓練方法を理解し、実施する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症に対する各種訓練方法の目的と方法を理解し、実施できる。 ・高次脳機能障害の中で比較的頻度の高い、半側空間無視、注意障害、記憶障害、遂行機能障害、観念失行、観念運動失行、視覚失認に対するアプローチを説明できる。 ・対象者の病態に適した訓練目標および訓練方法を、ICFの機能・活動・参加・環境因子・個人因子などを考慮して立案できる。		
授業計画	・失語症の各モダリティー、各レベルに対応した訓練方法を説明します。訓練で留意すべき点についても説明します。訓練の目的と実施方法を十分理解してください。症例に最も適切な訓練方法と難易度を選択し、実施するために必要な知識です。 ・高次脳機能障害は複数同時に生じることが多く、それらは互いに影響します。このため訓練目標を定めるには、障害の程度や種類、生活背景などを深く理解する必要があります。訓練目標が同じでも対象者の障害特性や個性によって訓練方法は異なります。本講義では、純粋例に対する代表的な訓練法を提示しますので、基本的な訓練目標の設定や訓練方法をしっかりと学んでください。 第1回：言語治療の留意点、失語症の予後、経過に合わせたアプローチ 第2回：刺激法、ディブロッキング法、認知心理学的アプローチ 第3～7回：モダリティーとレベルに応じた言語訓練 第8～9回：活動レベルの言語訓練、失語症者に対するAACアプローチ 第10回：訓練を行う上での留意点、半側空間無視に対するアプローチ 第11～12回：注意障害・遂行機能障害に対するアプローチ 第13回：記憶障害に対するアプローチ 第14回：観念運動失行・観念失行に対するアプローチ 第15回：視覚失認に対するアプローチ		
教科書	プリント随時配布		
参考書	小嶋知幸編著：失語症の評価と治療，金原出版，2010年，4800円＋税 森田秋子ほか：動画と音声で学ぶ失語症の症状とアプローチ，三輪書店，2017年，4800円＋税		
成績評価の方法・基準	レポート（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義の途中で適宜グループワークを行います。積極的に意見交換してください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、失語症やその他の高次脳機能障害、認知症に対する各種訓練方法を講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	失語・高次脳機能障害学 V（ケーススタディー）	西片　裕 山﨑　暁	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・失語症治療を実施できるようになるために、訓練プログラムを立案し、模擬的な訓練を実施する。 ・認知症の多様な症状に対しアプローチできるようになるために、認知症に行われているアプローチを理解し、具体的な方法を身につける。 ・アプローチの意義や目的を認知症者や家族にわかりやすく説明できるようになるために、プレゼンテーション技術を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・失語症例に対する適切な訓練を立案し、実施できる。 ・失語症例の反応に適切に対応し、柔軟に内容を修正しながら訓練できる。 ・多様な高次脳機能障害や周辺症状のある認知症に対するアプローチを理解し、病態に合わせた訓練目標を設定し具体的な訓練方法を立案できる。 ・認知症訓練の意義と目的、方法をわかりやすくプレゼンテーションできる。 ・立案した訓練プログラムを実施できる。		
授業計画	失語症模擬訓練の実施 ・自分たちで設定した症例に対し、グループ内で検討しながら適切な訓練を立案します。立案した訓練をスムーズに実践できるまで練習します。 ・他のグループから指名された学生に症例を演じてもらい、訓練を実演します。その後、実演した訓練についての感想やコメント、質問などの討論を行い、学生全体で理解を深めます。 認知症に対する訓練目標および訓練法のプレゼンテーション ・認知症に対し、言語聴覚士が行う訓練や援助方法理解し、わかりやすくプレゼンテーションする技術をグループ内で検討しながら学びます。 ・認知症の重症度および周辺症状の設定は各グループに一任します。 ・自分たちが設定した訓練目標と訓練内容をグループごとにプレゼンテーションします。その後、質疑応答や討論を行い、学生全体で理解を深めます。 第1回：失語症例に対する模擬訓練のグループ分け、症例の設定 第2回：認知症例に対する模擬訓練のグループ分け、対象の設定 第3～7回：訓練プログラムの立案と練習（失語例、認知症例） 第8～11回：グループごとの認知症に対する訓練のプレゼンテーション 第12～15回：グループごとによる失語症訓練の実演		
教科書	なし		
参考書	大塚裕一・宮本恵美：高次脳機能障害のグループゲーム集，金原出版，2003年，3600円+税		
成績評価の方法・基準	・失語症例（50%）立案した訓練内容と、訓練実施の様子を評価します。 ・認知症例（50%）設定した症例に見合った訓練目標・訓練内容であるかどうか、プレゼンテーション内容、質疑応答や討論時の対応を評価します。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	訓練プログラムの立案や作製、プレゼンテーションの練習は、時間を要することが想定されます。時間を有効に使い効率的に学習しましょう。		
教員紹介	学生が立案し、実施した訓練に対して、言語聴覚士として成人の失語・高次脳機能障害領域での実務経験をもつ教員が、丁寧にアドバイスをします。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅱ （失語症学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な失語症学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、失語症学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と失語症学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、失語症学を理解し、言語化することができる。 ・失語症学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・失語症学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な失語症学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：失語症学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な失語症学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅲ （高次脳機能障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な高次脳機能障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、高次脳機能障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と高次脳機能障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、高次脳機能障害学を理解し、言語化することができる。 ・高次脳機能障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・高次脳機能障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な高次脳機能障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：高次脳機能障害学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な高次脳機能障害学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	言語発達障害学Ⅶ （ケーススタディ）	馬目雪枝	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	言語聴覚臨床の一連の流れを、小児の言語発達の視点から遂行すること。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	対象者の状態や特性に合った言語訓練を実施するために、適切な問診、評価、言語障害学的診断、目標設定、訓練立案ができる。 対象者に関する情報を報告書としてまとめることができる。		
授業計画	第1回　復習：初回評価の検査バッテリー 第2回　発達段階に応じた指導 第3回　国リハ式＜S-S法＞の訓練法 第4回　親による子どもの障害受容 第5回　ケーススタディ①情報収集・評価 第6回　評価のまとめ・目標設定 第7回　訓練立案 第8回　発表 第9回　ケーススタディ②情報収集・評価 第10回　評価のまとめ・目標設定 第11回　訓練立案 第12回　発表 第13回　報告書のまとめ方 第14回　ケーススタディ①を報告書にまとめる 第15回　ケーススタディ②を報告書にまとめる		
教科書	医学書院「標準言語聴覚障害学　言語発達障害学」第3版		
参考書	建帛社「言語聴覚士のための臨床実習テキスト　小児編」		
成績評価の方法・基準	提出物30%、筆記試験70%		
授業の留意点・授業外の学習活動など			
教員紹介	日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科　専任教員		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅳ （言語発達障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な言語発達障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、言語発達障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と言語発達障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、言語発達障害学を理解し、言語化することができる。 ・言語発達障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・言語発達障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な言語発達障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：言語発達障害学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な言語発達障害学の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅳ （成人系発話障害）	鈴木真生・山﨑暁	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	・ディサースリアにおける評価診断、訓練仮説、訓練プログラム立案の捉え方が理解できる。 ・ディサースリアにおける訓練の概要・訓練アプローチを理解し、演習を通して訓練手技が理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・臨床における評価診断の目的を理解し、訓練仮説の立案と訓練効果の検証について、その重要性が説明できる。 ・訓練を行ううえで必要な考え方、流れが説明できる。 ・タイプ別および器官別訓練アプローチについて、目的・訓練手技が説明できる。		
授業計画	◆単元ごとに小テストを実施し、学習の理解を深める。 ◆障害像を捉え、評価診断、訓練仮説、目標、訓練プログラムを考察するためにレポート課題を行う。 第1回　オリエンテーション 評価診断、訓練仮説とその検証について 第2～4回　概論（対象者との関わり方、訓練の流れ・モデル等） 第5回　タイプ別：訓練アプローチ 第6回　口腔構音器官の器質障害をきたす疾患器質障害の評価と補綴物の種類・訓練 第7～8回　器官別：訓練アプローチ（呼吸機能） 第9～10回　器官別：訓練アプローチ（発声機能・鼻咽腔閉鎖機能） 第11～13回　器官別：訓練アプローチ（口腔構音機能） 第14回　器官別：訓練アプローチ（プロソディー機能等） 第15回　器官別：訓練アプローチ（AACアプローチ） ※レポート課題は第7回終了後に提示予定。		
教科書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第2巻 臨床基礎編、インテルナ出版、価格4,000円＋税 2）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第3巻 臨床実用編、インテルナ出版、価格4,400円＋税		
参考書	1）西尾正輝：ディサースリアの基礎と臨床 第1巻 理論編、インテルナ出版、価格5,600円＋税 2）西尾正輝：スピーチリハビリテーション第1巻～第5巻、インテルナ出版（各巻本体価格が異なります。詳細は講義内で説明します。）		
成績評価の 方法・基準	レポート課題（80%）、小テスト（20%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	「発声発語・嚥下障害学Ⅲ（成人系発話障害）」の理解が不可欠なため、しっかり復習して臨むこと。		
教員紹介	25年以上、教員として学生教育に携わってきました。臨床経験で得たこと、教員経験から得たことをふまえ、ディサースリアの訓練について演習を交えて講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅵ（摂食嚥下障害）	加藤太一・木村欣司	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	嚥下の機能回復を目指す訓練法を提供できるために、摂食嚥下の病態生理の復習から各訓練法の意義、実施法を関連づけて学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・各訓練法の意義や効果を理解できる。 ・各訓練法の実施ができる。 ・障害に対し、適切な摂食嚥下療法が提供できる。		
授業計画	第1回～第2回：リスク管理 第3回～第4回：訓練の実際（間接訓練） 第5回～第6回：訓練の実際（直接訓練） 第7回～第8回：訓練の実際（外科的治療・薬物療法・補綴治療） 第9回～第15回：症例検討 定期試験（振り返り）		
教科書	柴本勇ら 監修：『動画でわかる　摂食嚥下障害患者のリスクマネージメント』中山書店、価格：3,800円＋税		
参考書	適宜紹介		
成績評価の方法・基準	課題（50%）・期末試験（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	発声発語・嚥下障害学Ⅴ（嚥下障害）での知識が前提です。 しっかりと復習し臨むように心掛けて下さい。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語・嚥下障害領域での実務経験をもつ教員が学生に対し、嚥下の機能回復を目指す訓練法を提供できるために、摂食嚥下の病態生理の復習から各訓練法の意義、実施法を関連づけて理解させる科目です。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学Ⅶ （音声障害）	西片　裕	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	音声障害を評価して適切な音声治療を実施するために、音声障害の原因疾患、検査方法、音声外科の目的と種類、音声治療手技を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・音声障害の原因疾患の特徴を説明できる。 ・医師が実施する検査方法が理解できる。 ・言語聴覚士が実施する検査方法が理解できる。 ・音声外科の目的と方法が理解できる。 ・音声治療手技を理解し、代表的な手技を使用できる。		
授業計画	授業は適時配布するプリントに沿って行います。音声治療を行う医師の指示で、言語聴覚士は音声リハビリテーションを実施します。そのため、原因疾患のみならず、医師が行う検査や治療についての知識も広く学びます。言語聴覚士が分担する検査やリハビリテーション手技を一通り学び、代表的な手技について実践できるように学びます。 第1回：声の障害とは、音声障害の分類、声の発達と障害、声の乱用・誤用 第2～3回：音声障害の原因疾患 第4回：検査方法 第5回：音声外科、声の衛生、音響分析の実技 第6～7回：音声リハビリテーションの方法 第8回：人工喉頭、食道発声、シャント発声、カニューレ		
教科書	廣瀬肇監修：STのための音声障害診療マニュアル，インテルナ出版，2009年，3500円＋税		
参考書	Alison Behrman・John Haskell編、城本修・生井友紀子訳：実践音声治療マニュアル，2012年，インテルナ出版、3800円＋税		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）＊教科書等の持ち込み不可		
授業の留意点・授業外の学習活動など	配布されたプリントには余白を多くとってあり、授業中のノートとしても書き込めるようにしています。プリントの量が多いので、ファイル等に整理するようにしてください。		
教員紹介	言語聴覚士として成人の発声発語領域での実務経験をもつ教員が、音声障害の原因疾患や検査方法、治療手技を講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学 Ⅷ（流暢性障害）	南　めぐみ	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・吃音に関する基本的な知識を得て、吃音症状を評価し、治療方針を立てる。 ・吃音当事者が抱える問題について理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・吃音についてのガイダンスができるようになる。 ・アセスメントを行い、治療計画を立てることができるようになる。		
授業計画	第1回　　吃音の基礎的知識 第2回　　吃音の症状分類 第3回　　吃音の進展過程について 第4回　　各種理論（原因論） 第5回　　アセスメントについて 第6回　　吃音検査実習 第7回　　指導･訓練について 第8回　　指導・訓練について 定期試験（振り返り）		
教科書	都築澄夫著：『言語聴覚療法シリーズ13　改訂吃音』建帛社、 本体価格：2,500円＋税		
参考書	バリー・ギター：『吃音の基礎と臨床　総合的アプローチ』学苑社、 本体価格：7,600円＋税		
成績評価の方法・基準	定期試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業では，吃音に関するさまざまな書籍を紹介します。吃音に関心を持ち，積極的に本を読んでみて下さい。		
教員紹介	小児科クリニックのＳＴである教員が講義を行います。吃音に関する研究も行っておりましたので，気になったことは授業でどんどん質問して下さい。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	発声発語・嚥下障害学IX （ケーススタディー）	古谷祥宏・鈴木真生	1単位・30時間
授業の概要 （授業の目的）	発声発語・嚥下障害領域（ディサースリア・摂食嚥下障害）のリハビリテーションが実施できるようになるため、設定した症例について問題点の把握から訓練目標、訓練仮説、訓練プログラム立案に至る過程が理解できる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・評価結果から症例に対する問題点を挙げることができる。 ・問題点から適切な訓練目標を立てることができる。 ・問題点、訓練目標から訓練仮説を立てることができる。 ・訓練仮説をふまえ、具体的な訓練プログラムが選択できる。		
授業計画	第1回　オリエンテーション・事例検討（ディサースリア領域） 第2～3回　事例検討（ディサースリア領域） 第4～5回　事例検討（ディサースリア領域） 第6～7回　事例検討（ディサースリア領域） 第8回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第9～10回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第11～12回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第13～14回　事例検討（摂食嚥下障害領域） 第15回　総括 ※授業回数は、ディサースリア領域：7回、摂食嚥下障害領域：7回、総括1回を予定しています。授業予定は第1回オリエンテーションで説明します。 ※各領域において、問題点の把握、訓練目標の立案、訓練仮説、訓練プログラムの立案を中心とした事例検討を行います。 ※各領域のレポート課題は授業時間内に説明します。 ※授業の順番は変更になる場合があります。		
教科書	プリント随時配布		
参考書	適宜紹介		
成績評価の 方法・基準	ディサースリア領域：発表・発表資料（20%）・レポート課題（30%） 摂食嚥下障害領域：レポート課題（50%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	本科目はディスカッションを通して症例検討を行う。ディスカッションは時間を効率的に使い、主体的に取り組むこと。		
教員紹介	◆摂食嚥下障害領域（古谷祥宏：所沢リハビリテーション病院勤務） 学生が立案した目標、訓練プログラムまでに対して、言語聴覚士としての実務経験から、丁寧にアドバイスをします。 ◆ディサースリア領域（鈴木真生） 教員経験から得たこと、臨床経験で得たことをふまえ、ディサースリアの捉え方についてアドバイスをします。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅴ （発声発語障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な小児系発話障害、成人系発話障害、音声障害、流暢性障害といった発声発語障害学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、発声発語障害学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と発声発語障害学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、発声発語障害学領域を理解し、言語化することができる。 ・発声発語障害学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・発声発語障害学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な発声発語障害学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：発声発語障害学領域に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な発声発語障害学領域の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅵ （摂食嚥下障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な摂食嚥下障害学の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、摂食嚥下障害学の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と摂食嚥下障害学の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、摂食嚥下障害学を理解し、言語化することができる。 ・摂食嚥下障害学を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・摂食嚥下障害学の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な摂食嚥下障害学の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：摂食嚥下障害学に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な摂食嚥下障害学の知識を教えます。		

2023年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学Ⅳ （小児聴覚障害）	岡野　由実	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	先天性聴覚障害が生涯発達に及ぼす影響を理解し、言語聴覚士の果たす役割について考察する。 小児聴覚障害に関わる多領域に渡る情報（医学、教育、心理、補聴技術 等）について、包括的に理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	小児聴覚障害臨床における医学的基礎知識および各種聴覚検査について説明できる。 小児聴覚障害臨床における言語・コミュニケーション評価と指導について概要が理解できる。		
授業計画	第1回　「小児聴覚障害の原因と医学的検査」 第2回　「小児の聴覚検査」 第3回　「小児の補聴器と人工内耳」 第4回　「言語・コミュニケーション評価」 第5回　「前言語期段階の指導」 第6回　「言語習得段階の指導」 第7回　「就学後の指導」 第8回　「保護者支援」 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	プリント随時配布		
参考書	城間将江 他（編集）:『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（第3版）』医学書院、価格：5,200円＋税		
成績評価の方法・基準	毎回授業後に小テストを実施します（資料持ち込み可）。 成績は最終回に実施する試験（資料持ち込み不可）にて評価します		
授業の留意点･授業外の学習活動など	本講義では臨床ビデオを用いて実施します（保護者の了解済）。講義内で知り得た症例の個人情報については、一切口外しないよう留意してください。		
教員紹介	言語聴覚士として、療育センターや耳鼻咽喉科クリニックなどにおいて聴覚領域の臨床経験を持つ教員が、医学・教育・心理・補聴技術といった多領域に渡る内容を、実際の症例や臨床ビデオを交えながら臨床の視点から講義します。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学V （補聴器・人工内耳）	関口　貴之	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	聴覚障害児者への補聴手段の一つとして、補聴器は不可欠といえます。 本課目では、補聴器の構造から適合理論、その手法についての理解を深め、対象に応じた補聴器の適合ができるようにする。また、人工内耳の構造、手術適応、マッピング、効果、リスク、評価法等の基本的事項を理解する		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・補聴器の構造・機能についての理解を深める。 ・補聴器の特徴を理解し、対象に応じて補聴器の選択、適合ができるようにする。 ・人工内耳の構造、手術適応、マッピング、効果、リスク、評価法等の基本的事項をできる。		
授業計画	第1回　補聴器の構造・機能 第2回　PCによるデジタル補聴器のフィッティング、試聴演習② 第3回　補聴器の特性測定演習、補聴器適合理論と利得測定法（実耳測定含む） 第4回　対象に応じた補聴器の適合理論とその手法、装用効果の測定 第5回　補聴器の福祉申請、事例検討（小児・成人） 第6回～第7回　人工内耳とは…構造・適応基準・リスク・禁忌など 第8回　人工内耳装用のリハビリテーション・評価法など 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	事前にプリント等配布		
参考書	・立木孝（編）・日本聴覚医学会（監）： 『聴覚検査の実際　改訂3版』（南山堂）、3,570円+税 ・中村公枝・城間将江・鈴木恵子（編）・藤田郁代（監）： 『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』　（医学書院）、5,200円+税 ・小寺一興（著）： 『補聴器フィッティングの考え方　改訂3版』（診断と治療社）、3,200円+税		
成績評価の方法・基準	期末試験100%		
授業の留意点･授業外の学習活動など	補聴器を選択、フィッティングしていく過程には、純音・語音聴力検査など聴覚検査の解釈ができることが重要です。また、難聴児者におけるコミュニケーション障害についての理解も必要です。聴覚障害学（Ⅰ）概論、（Ⅱ）成人聴覚障害、（Ⅲ）小児聴覚障害等、他の講義の復習をしておいてください。		
教員紹介	パナソニック補聴器（株）首都圏営業ブロック所属　　言語聴覚士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	聴覚障害学VI （視覚聴覚二重障害）	森澤　亮介 筑波大学附属大塚特別支援学校	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	視覚聴覚二重障害児・者への言語療法を展開できるようになるため、病理・生理・コミュニケーションモードなど基礎的な知識を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	視覚聴覚二重障害の病理・生理・コミュニケーションなど基礎的知識を身につける。 事例検討やケースレポートを通して視覚聴覚二重障害について考察できる。		
授業計画	第1回　視覚障害　概論 第2回　視覚障害疑似体験 第3回　視覚聴覚二重障害　病理・生理 第4回　視覚聴覚二重障害　コミュニケーション 第5回　視覚聴覚二重障害者の生活 第6回　視覚聴覚二重障害疑似体験 第7回　視覚聴覚二重障害児・者への言語訓練 第8回　視覚聴覚二重障害児　事例検討 第9回　定期試験（振り返り）		
教科書	講義資料　講義時に配布		
参考書	特になし		
成績評価の方法・基準	試験80%　講義内における小レポート20%		
授業の留意点・授業外の学習活動など	事例検討は、4～5人の小グループで行います。 障害疑似体験では、アイマスクを使用します。（タオル等での代用も可） 可能な範囲で事前に準備してください。		
教員紹介	公立の特別支援学校で視覚聴覚二重障害のある児童・生徒を担当していました。当時の実践例から具体的な関わりの基礎をお話しいたします。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	通年	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	専門分野特論Ⅶ （聴覚障害学）	山﨑暁・木村欣司 西片裕・鈴木真生	1単位・15時間
授業の概要 （授業の目的）	・言語聴覚士に必要な成人聴覚障害、小児聴覚障害、補聴器・人工内耳、視覚聴覚二重障害といった聴覚障害学領域の知識を整理する。 ・自己の理解度を分析し、聴覚障害学領域の理解を確実にする。 ・言語聴覚療法と聴覚障害学領域の関連について理解を深める。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・言語聴覚士に必要な知識を身につけるために、聴覚障害学領域を理解し、言語化することができる。 ・聴覚障害学領域を理解するために、計画を立てて学習できる。 ・聴覚障害学領域の理解度を分析し、それに合わせて学習内容を変更できる。		
授業計画	概要 言語聴覚士にとって必要な聴覚障害学領域の知識を身につけるために、計画的な学習ができるよう、適宜教員が指導する。 第1～3回：聴覚障害学領域に対する学力の自己分析、 学習計画の立案、学力確認テスト 第4～8回：学習計画に基づく学習、および教員による指導		
教科書	大森孝一他編著；言語聴覚士テキスト第3版，医歯薬出版，4,200円＋税		
参考書	なし		
成績評価の方法・基準	筆記試験（100%）		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義では自己学習の時間を取り入れている。主体的に学習し、学習するなかでの疑問点は、積極的に質問し早急に解決してほしい。		
教員紹介	言語聴覚士としての臨床経験のある教員が、言語聴覚士として必要な聴覚障害学領域の知識を教えます。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
言語聴覚学科	2学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門分野	実習Ⅱ（臨床実習）	鈴木真生・木村欣司 西片裕・山﨑暁 実習指導者	12単位・480時間
授業の概要 （授業の目的）	・臨床実習指導者の指導を受けながら、対象者の全体像ならびに生活機能と障害をとらえ、評価・訓練計画の立案・具体的訓練の一部経験・記録・再評価など一連の言語聴覚療法を学ぶ。 ・言語聴覚士としての基本的臨床能力を身につける。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・対象者やその家族と真摯に向き合うことができる。 ・対象者に関する情報を取捨選択し、生活上の問題点とその原因について仮説を立てることができる。 ・評価、言語病理学的診断、訓練仮説を立てることができる。 ・訓練仮説にもとづいた訓練計画を立案し、訓練の一部が経験できる。 ・評価に加え、経過のまとめや現状、今後の課題、方針等を含めた報告書が根拠にもとづき作成できる。 ・他職種との連携が理解できる。 ・自分の考えを整理して、相手に伝えることができる。 ・実習経験をふまえ、臨床の流れ（臨床思考過程）を説明することができる。		
授業計画	【実習期間：予定】　※2024年2月時点 2024年7月1日（月）～2024年11月30日（土）まで 【実習時間】 上記期間のうち合計480時間の実習を行う。 ※内訳：320時間（40日間）・160時間（20日間） 【その他】 ・実習Ⅱ（臨床実習）は実習施設で行う。 ・実習配置は別途指定する登校日に発表を行う。実習配置をもとに施設の概要等を確認する。 ・実習前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席する。 ・具体的な実習の内容は「実習ガイダンス」にて詳細を別途配布する。 ・実習終了後、学内で予定されている「症例報告会」に出席し、発表を行う。		
教科書	必要に応じて種々のものを活用する。		
参考書	必要に応じて種々のものを活用する。		
成績評価の 方法・基準	実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と教員が総括的に評価する。実習成績表については、詳細を別途配布する。		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習は、施設側のご厚意と実習指導者の後輩育成に対する熱意、対象者のご協力のもとに成り立つものである。学生は、実習指導者のもとで意欲的に取り組むとともに、真摯さ、感謝を忘れてはならない。また、実習に向けて事前準備をしっかり行うこと。		
教員紹介	病院や介護老人保健施設等の実習施設において、各施設で勤務される言語聴覚士が実習指導者となり言語聴覚臨床の実際について指導します。 また、言語聴覚士の経験をもつ学科教員が臨床実習前・後の指導を行います。		